

東三省易幟問題等ニ関スル張継ノ演説報告ノ件

北平政治分会主席張継ハ本月七日同会記念週ニ於テ東三省易幟問題編遣會議等ニ関シ講演シタル趣ニテ右講演ハ八日ノ各支那紙ニ掲載セラレタルカ其ノ中日本ニ関係アル事項トシテ

一、東三省当局ハ今回突如吾党ノ主義感化ニ依リ易幟ヲ実行シ三民主義ニ服従セルカ是ニ依テ見レハ東三省人民カ元來易幟ヲ欲セサリシニ非スシテ實際ハ日本軍閥カ東三省ニ対シ莫大ノ野心ヲ抱懷シ東三省ト吾党ノ合作ハ日本ニ不利ナルヘキヲ虞レ之ヲ阻止シ居リタルモノナルコトヲ知ル

一、東三省ハ今回易幟セリト雖同地ハ積年日本ノ侵略ヲ受ケ一切ノ交通金融商業ノ各機關ハ多ク日本ノ掌握スル所ナリサレハ吾人ハ同地同胞ニ対シ十二分ノ同情ト援助ヲ与フヘキナリ曩ニ張作霖ハ其ノ人格国人ノ久シク唾棄スル処ナリシモ遂ニ東三省ヲ挙ケテ売ルヲ肯セサリシ故ヲ

四 国民革命軍の北伐関係

248 昭和3年1月24日 在漢口高尾総領事より
田中外務大臣宛

馮玉祥の動静について

公信第三四号 (2月8日接受)

昭和三年一月二十四日

在漢口

総領事 高尾 亨 (印)

外務大臣男爵 田中 義一殿

河南ニ於ケル最近ノ状況報告ノ件

本件ニ関シ最近河南省鄭州ヨリ帰来シタル邦人西崎係市ノ談話要領左記ノ通り何等御参考迄報告ス

記

一、軍事方面

徐州方面ニ於テ勝チタル馮軍ハ今ヤ得意ノ状態ニアリ津浦線ノ南京軍ト連絡シタルタメ其軍ノ一部ヲ返シテ鄭州ヨリ京漢線ニ沿ヒテ北進ヲ開始シ其先鋒ハ既ニ直隸省境

以テ日本ノ為爆彈ヲ投セラレ死亡セリ張ノ一生ニ亘ル親日モ遂ニ日本ノ歎心ヲ得ル能ハサリシナリ其ノ張ニ及ハサル者ニシテ恐怖ノ為敢テ日本ト親シマサルハ当然ナリ一、支那ノ如キ大国ヲ治メムトスルニハ総理ノ均權主義ニ依ルヲ要ス即中央政府ト地方政府ノ權限ヲ明ニ区画スルモノニテ彼ノ中央集權制ハ小国ニ適スルモ大国ニハ不適当ナリ従前日本ハ維新以來数十年国政發展シ且隣国ナレハ日本ノ制度ニ倣ハハ必ス強国タルヲ得ヘシトノ論ヲ為スモノ多ク中央集權ニ依リ統一ヲ計ラムト企図セルモ其ノ結果ハ予期ニ反セリ余ハ分治合作ニ依リ統一スヘシトナスモノナリ

ト述ヘ居レリ委細別添原文ニテ御承知有度右何等御参考迄報告ス

本信写送付先 奉天、上海

ニ進出シツツアリ馮軍ハ目下新兵ノ大募集ヲ行ヒツツアリ此ハ本年三月ニ露国ヨリ小銃一万挺到着スル筈ニテ兵力拡張ノ準備ナリト云フ

馮玉祥ト露国トノ關係ニツキ表面ニ表レタル処ヲ見ルニ蒙古ヲ經由スル露国トノ交通ハ自働車ヲ以テ相当頻繁ニ行ハレ居ルト認メラレ最近漢口ヨリ露国ニ輸出スル磚茶ハ京漢線ニ依ツテ鄭州ニ送ラレ同地ヨリ隴海線ニテ陝西省境ニ運ヒ自働車ニテ蒙古ヲ經テ露国ニ送リツツアリト云フ

従前ヨリ馮ニ從ヒ居ル露人顧問三名ハ今尚ホ依然トシテ鄭州ニ在リ軍事ノ画策ニ任シ居ル由ナリ

二、政治方面

従來馮玉祥ハ共産黨員ニ対シ極メテ寛大ノ態度ヲ取り居タルモ最近南方ノ清党運動ニ刺激サレ共産黨員ニ対シ断乎タル処置ヲ取ル旨ヲ声明シタルカ未タ具体的ニ処置セル事実ヲ聞カスト

然レ共昨年漢口ニ於テ共產運動盛ナリシ當時漢口ニアリテ東方被圧民族連合会ヲ組織シ居タル印度共產黨員五十余名ハ昨年十月頃ヨリ鄭州ニ移リ馮ノ給与ヲ受ケツツアリ馮ノ共產党ニ対スル態度尚ホ多ク疑フヘキ点アリト最近ノ河南全省ハ軍隊、土匪、共匪、紅槍会等ノ各団体対立シ良民ニ対スル誅求掠奪ハ飽クナキ有様ニテ不良者ハ土匪ト化シ善良ナル者ハ一家老幼ヲ携ヘテ乞食トナリ駐馬店、信陽等一帶ノ地方ハ數千人ノ乞食群橫行シ彼等ハ餓ニ瀕シテ真ニ悲惨ノ状況ニアリト

三、日本人ニ対スル馮玉祥ノ態度

日本棉花株式会社鄭州出張所ハ昨年末棉花輸送ニ関シ毎日四十噸貨車一輛ヲ出ス約束ノ下ニ其前渡金九萬數千円ヲ支払ヒタルカ其後約束ヲ実行セス此ノ上戰時特別稅ヲ負担セサレハ輸送セス等ト云ヒテ同社ノ棉花輸送ハ意ノ如ク進行セス困難シツツアル由ナリ

最近馮ハ又モヤ在鄭日本人ニ対シ一萬六千円ノ軍費負担ヲ交渉シ来リ在留民ハ困難シテ目下當館ニ報告シ指示ヲ乞ヒ居レリト

尚ホ日本人ニ対スル尾行取締ハ相變ラス嚴重ヲ極メ往復

付警戒サレタシト内報シ来ル向モアリ又自己ノ生命財産保護ノ見地ヨリ張作霖一日モ速ニ天津方面ニ引揚ケ戦線ヲ縮少シテ最後ノ防禦手段ヲ執ルニ至ランコトヲ希望シ居ルモ張ハ今尚戦局ヲ樂觀シ居ル模様ニ付此ノ際日本側ヨリ張ニ対シ最後ノ決ヲ為ス様勸告シ呉レ間敷キヤ等申来ル向モアル位ナリ要スルニ是等要人ノ多クハ一身ノ保存ノミニ急ニシテ時局ノ推移トハ余リ關係無キモノト見テ差支ヘ無キモノノ如シ

二、之ニ反シ南方關係者ハ昨今気焰大ニ挙リ国民党ニ依ル

全國統一ノ事業ハ其ノ間多少ノ曲折アルモ其ノ遂ニ実現スヘキハ既定ノ結論ニシテ今日ノコトアル決シテ意外トスルニ足ラス唯今回ノ北伐ニ際シ最モ心配シタルハ共產派ニ依ル後方ノ攪乱ナリ共產派ハ近時国民党ヨリ極端ナル圧迫ヲ受ケ居ル關係上(國脱カ)民党ヲ憎ムコト蛇蝎ノ如ク又戰乱ヲ出来得ル限り長引カシメテ自派策動ノ機会ヲ得ントノ動機ヨリ凡ユル手段ヲ講シテ国民党統一運動ノ成功ヲ阻害セントスルノ事實アリ從テ今日ノ國民黨ハ以前ト異ナリ共產派トハ何等ノ連繫ナキノミナラス却テ其ノ第一ノ敵ニシテ國民黨カ飯ニ京津方面ヲ支配スルニ至ルモ外国

ノ信書ヲ檢閲シ邦字新聞ヲ没取スルタメ在任邦人ハ不便ヲ感スル処多シト云フ

只鄭州地方ノミハ秩序完全ニ維持サレ内外人ノ生命財産ハ完全ニ保護サレツツアリ何等危険ナシト云フ

写送付先 在支公使

249 昭和3年4月26日 在天津加藤總領事より
田中外務大臣宛(電報)

時局に関する天津租界居住の要人および南方
關係者の意向等報告

天津 發
本省 4月26日後着

第三六号

山東ノ時局急転ニ関シ

一、当地租界居住ノ要人連ハ一般ニ北伐成功セハ組織的財産没取拘禁暗殺等盛ニ行ハルヘシト予想シ恐慌ヲ来シ居ル模様ニテ駐屯軍ノ現状租界警備ノ方針等ニ関シ打合せ来ル外南方宣伝員及共產黨員(例ヘハ陳独秀、李立三等)多數入込ミ日仏租界ニ姿ヲ潜メ頻リニ策動シ居ルニ

人ノ生命財産ニ危害ヲ加フルカ如キハ毛頭アリ得ヘカラルコトナリト称シ

三、山東出兵ニ関シテハ公然之ニ賛意ヲ表スルモノ皆無ナルカ内心歡迎シ居ルモノモ無キニ非サレト衷心ヨリ出兵

ニ反対シ居ルモノモ鮮カラス出兵反對論者ノ言フ処ハ(イ)共產分離後ノ國民黨ハ日本人ノ生命財産ニ危害ヲ加フルカ如キハ全然アリ得ヘカラス(ロ)日本ノ大部隊ノ出動ハ全國ノ統一ヲ此ノ一挙ニ實現セントスル國民黨ノ活動ニ事實上鮮カラサル困難ヲ与フルモノナリ(ハ)出兵ハ条約ニ根拠無キハ勿論南京政府最近累次ノ声明ニ対シ日本政府ハ何等ノ考慮ヲモ加ヘス南京政府ノ誠意ト面目トヲ無視セルモノナリ(ニ)日本ニシテ若シ支那國民運動ノ根本精神ニ同情ト理解トヲ与ヘ一定条件ノ下ニ之ニ満足ヲ与フルノ態度ヲ執リタランニハ兩國間ノ重要問題解決ニ当リ將來多大ノ利益アルヘキニ拘ラス出兵等全然正反對ノ行動ニ出テツツアルハ遺憾ナリト言フ

在支公使、青島、濟南、上海、奉天ニ転電セリ

250 昭和3年4月20日

在漢口高尾総領事より
田中外務大臣宛(電報)

北伐の完成は時間の問題との李宗仁所見につ
いて

漢口 発
本省 4月26日後着

第一五二号

二十六日本官ヲ来訪シタル李宗仁ノ談話中参考トナルヘキ
点要領左ノ通

北伐ノ完成ハ今ヤ時間ノ問題ニシテ濟南北京ハ指呼ノ内ニ
アリ最近接受セル馮玉祥来電ニ依レハ京漢線方面モ一週間
前迄戦況抄々シカラスシテ一時後退シタルモ其ノ後勢ヲ盛
リ返シ其ノ主力ハ既ニ磁州大名ニ進出シ又山西閻錫山モ娘
子関ヲ越ヘテ既ニ井陘ニ前進シ東西呼応シテ奉軍ノ主力ヲ
包囲スルノ形勢ヲ示シタルヲ以テ今後山東方面ノ戦況ノ進
展ト共ニ張作霖ハ遠カラス北京ヲ撤退スルニ至ルヘン自分
ノ所見トシテハ張作霖ノ失脚ハ殆ト動カサル問題ニシテ同
人関外ニ遁竄シ悔悟下野スルト共ニ部下將領ニシテ国民政
府ニ服従シ三民主義ヲ奉スルノ誠意アルニ於テハ深ク之ヲ

ニ多大ノ痛手ヲ負ヒ大敗シタルハ事実ナリ殊ニ第二方面
軍ノ如キ殆ト全滅セリト迄伝ヘラル但シ軍隊ノ規律肅
節制アル事ハ他ニ類例ヲ見サル程ニシテ士氣モ極メテ旺
盛三ヶ月以内ニ北京ヲ奪取スヘシト意気込ミ居レリ馮ノ
下ニハ徐謙ノ外露国人三名アリ表面ハ独逸人ノ医者ナリ
ト称シ居レリ

二、河南省民ハ馮玉祥ノ苛斂誅求庄迫政治及仏閣廟宇ノ打
壊シ等軍閥以上ノ過激政策ニ非常ニ反感ヲ抱キ民心全ク
馮ヲ離レ怨声沸クカ如ク既ニ南陽ノ岳維峻光州ノ任應岐
及田維勤旧部下並ニ樊鍾秀ノ如キハ偽革命ノ旗ヲ掲ケ民
衆ヲ欺ク馮玉祥ヲ倒シ河南人ノ自由ヲ恢復スヘシト宣言
シテ馮玉祥打倒ノ態度ニ出テ其ノ兵力約三万砲二十門ヲ
有シ隴海線汜水以西(鄭州ノ西方)洛陽潼関ヨリ京漢線
ノ西方地区一帶ニ占拠シテ馮軍ニ對抗シ今ヤ馮軍モ腹背
ニ敵ヲ受ケ非常ニ困惑シ居レリ

兩湖軍ノ北伐援助ハ如何ナル程度ナルヤ不明ナルモ先発
隊葉琪軍サヘ未タ兗州以上ニハ進出シ居ラス

三、京漢線ハ定期ニ運行ヲ続ケ途中何等ノ危険ナク又外国
人ニ対スル庄迫対日感情ノ悪化等ノ模様ナク在留民ハ完

追求シテ徹底的撲滅ヲ期スルノ必要無ク寧ロ北伐軍事行動
ヲ終熄シテ楊宇霆張學良等ト共ニ完全ナル建国ノ方途ヲ講
シ裁兵ヲ断行シ以テ国民ノ痛苦ヲ除キ民心ヲ安定セシメ度
シ云々

(南京ヘハ上海ヨリ青島ヘハ濟南ヨリ暗送アリ度シ)
在支公使、上海、濟南ヘ転電セリ

251 昭和3年4月20日

在漢口高尾総領事より
田中外務大臣宛(電報)

島田鄭州日本人会会長の河南情勢に関する談
話について

漢口 発
本省 4月29日前着

第一五四号

二十八日来漢シタル鄭州日本人会会長島田ノ河南ニ関スル談
話要領左ノ通

一、馮玉祥ノ兵力ハ約二十万ト称スルモ兵器彈藥甚タ欠乏
シ戦闘ニ耐ヘ得ルモノハ約十万ニ過キス約一週間前京漢
線彰德付近ニ於テ奉天軍ノ兵器ノ精銳ニ制セラレ主力軍

全ニ保護セラレ居レリ

北京、上海、濟南、南京ニ転電セリ

252 昭和3年5月(8)日

在中国芳沢公使より
田中外務大臣宛(電報)

北京滞在中の林総領事に対する潘國務総理の
談話について

北京 発
本省 5月8日後着

第五八六号

(1) 来京中ノ林奉天総領事(八日離京)七日有野ノ案内ニテ潘
國務総理ヲ訪問シタルカ其ノ際ノ潘ノ談話中参考トナル点
左ノ通

一、今回ノ戦争ニテ北軍ハ当初ヨリ馮玉祥討伐ヲ目的トシ
其ノ他ニ対シテハ主トシテ防戦の方針ヲ執リ来リタルカ
山東軍ノ失敗ニ依リ全局ニ影響ヲ来シタルハ遺憾ナリ元
来山東軍ハ軍規訓練及素質共ニ不良ニテ各地ニ於テ殆ト
戦ハスシテ後退シタル為比較的善戦シタル孫傳芳軍モ之
ニ引摺ラレテ退却ヲ余儀無クセラレタリ

一、然レトモ京漢線方面ハ極メテ有利ニ發展シ同方面ノ馮玉祥軍約八万ノ中俘虜一万三千傷亡兵二万其ノ他ヲ合シ同軍ノ損失兵力約四万ニ達スル見込ニテ充分打撃ヲ与ヘタルモノト認メラル

一、公平ナル見地ヨリ見テ馮軍ハ奉天第三、四方面軍ヨリモ強ク殊ニ敗退スルモ長ク防守ニ堪ユル長所ヲ有ス蔣介石軍ハ素質不良ニシテ一度敗戦セハ守備ノ力ナキコト山東軍ト大差無シ

一、自分(潘)ハ德州ヲ視察シ昨夜帰来シタルカ同地ニテハ褚玉璞ハ山東軍ヲ集収シ何豊林ト共ニ防備ヲ進メツツアリ孫傳芳ハ禹城ニ在リテ前線ヲ黄河ノ北岸ニ配置シ居レリ張宗昌モ尚元氣ニテ是非濟南ヲ奪回スヘシト意氣込ミ居レリ

一、和議問題ニ付テハ北方ハ当初ヨリ蔣及閻トハ妥協シ差支無キ意向ナルモ共產化セル馮玉祥トハ和陸ノ余地無シ現ニ昨日上海商務總會ヨリ電報ニテ南北ノ和議ヲ提議シ来リタルカ自分ハ和議差支無キ意向ヲ回答セシメ置ケリ尤モ此ノ種提案ハ從來屢々繰返サレタル処ナルカ具体化セズ從テ仮令相談出来ルモ調印ヲ見ル迄ハ戦争ハ依然繼

転方について

南京 5月9日後発
本省 5月10日後着

第一一〇号(至急)

貴電第二二号ニ関シ

屢次往電ノ通国民政府ハ此ノ上日本トノ事端ヲ繁カラシムルハ同政府ノ存亡ニ係ハル次第ニモアリ極力治安ノ維持ニ力メ当館護衛ニ付テモ誠心誠意斡旋致シ居リ急ニ異変モ起ラサルヘシト信シ居レリ乍併各団体ノ排日行動日ヲ追テ熾烈ヲ加ヘ本九日モ約六百名ノ遊行アリ総司令部ハ二十名ノ護衛兵ヲ当館ニ急派シテ万ニ備ヘ李烈鈞ノ秘書陳銳(我士官学校出身)自動車ヲ以テ本官ヲ迎ヘニ来リ本一日丈地方ニ同行サレタシト申出テ本官其ノ好意ヲ謝スルト共ニ職務上其ノ意ニ從ヒ難シト断リタル程ノ次第ニテ館員ハ又幾分不安ヲ感セサルニ非スト思考セラル而シテ軍艦側ニ於テハ第二次ノ戦鬪益々拡大シ南軍算ヲ乱シテ敗北シツツアリ後方擾乱氣遣ハルル処万一ノ場合城内我二里ヲ隔テタル当館ノ救助ハ至難ナルノ故ヲ以テ(軍艦ニテハ前年ノ例ニ懲リ予メ陸戦隊上陸ヲ好マス)再三下関迄引揚方ヲ希望シ居

統セラルヘシ云々

尚潘ハ濟南事件ニ関シ南軍ノ裏面ニ共產党指嚟ノ疑アルコト蔣介石ノ背後ニハ軍事委員会戦地委員会等アリテ蔣ノ命令行ハレサルコト等ヲ述ヘ又南軍ノ行動ハ常規ヲ以テ律シ得ス從テ本件ノ發生ニ依リ必スシモ南軍カ当分北進ヲ見合スモノトモ断シ得サルヘシト語リタル趣ナリ

右談話中ノ上海總商會來電ハ八日ノ各新聞ニ発表セラレタルカ右ニ依レハ六日付張作霖其ノ他各將領ニ宛テタルモノニハ大要濟南事件ノ發生ニ鑑ミ南北一致外侮ヲ防キ國難ニ処スル必要アリ速ニ干戈ヲ収メ孫文ノ主張ニ依リ国民會議ヲ召集シ國是ヲ解決スヘシトノ趣旨ヲ記載シアリ右ニ對シ天津商務總會ハ之ニ賛意ヲ表シ相共ニ尽力スヘキニ付進行方法ヲ明示セラレタシトノ返電ヲ發シタル由ニテ全文ヲ発表シ居レリ

上海、濟南、青島、漢口ニ転電シ奉天、天津ニ暗送セリ

253 昭和3年5月9日 在南京岡本領事より
田中外務大臣宛(電報)

排日激化による万一の場合を考慮し領事館移

リ旁貴意ニ從ヒ明十日或ハ十一日下関支那旅宿ノ数室ヲ借受ケ移転スヘシ

移転前国民政府、総司令部並ニ外交部ニハ本官赴キテ誤解無キ様説明スル積リナリ尚日本旅館宝來館ハ三星洋行ノ二階ヲ借受ケテ營業シ居リ客室モ間ニ合セノ疊敷四室ニ過キス而モ是等ハ避難邦人ニ依リテ占メラレ居ルヲ以テ已ム無ク前記ノ通隣接支那宿ヲ借受クル事トナシタル次第ナルモ室数合計約十室(小室)此ノ室代一日約四五十弗見当ナリ御含置ヲ請フ

館員家族トモ十七名ノ多数ナルヲ以テ前年ノ如ク日清「ハルク」ニ引越スハ不可能ナリ
前電ノ通転電セリ

254 昭和3年5月10日 在中国芳沢公使より
田中外務大臣宛(電報)

京綏、京漢、正太各線方面等における奉天軍の防備態勢について

北京 発
本省 5月10日前着

第六〇一号
往電第五六一号ニ関シ

其ノ後張作霖ノ態度ハ一先ツ落著キ兎モ角モ北京ノ現状ヲ維持スル為各戦線ヲ整理シ各線概ネ防守的攻勢ヲ執ルコトニ決定シタル模様ナルカ諸方面ノ情報ヲ綜合スルニ

(一)京綏線方面ニテハ従来ノ通張作相ヲ總司令トシ山西西北部ノ現在陣地ヲ守備シ山西軍ノ進出ヲ防ク程度ニ止メ

(二)京漢線ニテハ戦線短縮ノ為第三四方面軍ノ主力ヲ石家荘迄引下ケ京漢、正太兩線ノ連絡指揮ヲ便ニシ防禦線ヲ三段ニ分チ第一線ヲ順德第二線ヲ石家荘第三線ヲ保定ニ置

キ尚最前線ヲ沙河、臨洛関ニ配置スルコトトシ既ニ磁州及邯鄲方面ノ軍隊ハ引揚ヲ了シ目下各軍ヲ夫々新防禦線ニ移動シツツアル模様ナリ

(三)正太線ニ於テハ井陘ハ既ニ山西軍ニ奪回セラレ奉天軍ハ獲鹿及平山ノ線ニ於テ山西軍ト対峙シツツアリ

(四)大名ハ既ニ河南軍ノ手ニ帰シ居ル処同方面ニ在リタル褚玉璞軍ハ津浦線ニ移動シ新ニ第三四方面軍ノ一部ヲ補充スヘントノ説アリ

(五)更ニ津浦線ニ於テハ最近積極的防備ノ態度稍々顯著トナ

北京 発
本省 5月10日後着

第六〇二号

往電第五九六号ニ関シ

先日来張作霖ノ手許ニハ各方面ヨリ停戦請願書多數到達シ居リ一面各部総長及張学良楊宇霆等モ停戦ヲ勸告シ特ニ羅文幹ハ六日劉哲同道ニテ石家荘ニ赴キ先ツ張学良及楊宇霆ノ賛成ヲ求メタル上更ニ張作霖ヲ説キタル結果張モ結局民心ノ帰向ニ順応スル為愈々和平通電ヲ発スルコトヲ承認シ九日夕刻大要別電第六〇三号ノ通発セラレ十日ノ各新聞ニ掲載セラレタリ尚九日夜半町野力張ニ面会ノ際張ハ該通電ニ関連シ今後閻錫山トハ妥協シ得ルモ赤化セル馮玉祥及蔣介石トハ到底和平提携ハ難シト語リタル趣ナリ
本電、別電ト共ニ奉天、哈爾濱、青島、上海、南京、漢口、広東、張家口へ転電シ天津へ暗送セリ
濟南へハ青島ヨリ転電アリタシ

(別電)

リツツアリテ第一線ヲ禹城付近ニ置キ孫傳芳軍及褚玉璞軍ノ一部ヲ之ニ配備シ又德州ニハ主トシテ褚玉璞軍及褚ニ依リ改称セラレタル山東軍ヲ置キ更ニ何豊林ハ滄州ヲ根拠トシ新ニ到着スヘキ吉黑軍ヲ加ヘテ後方防務ニ當ラシムルモノノ如シ

大体ノ情勢右ノ通ナルニ加ヘ濟南事件ノ拡大ニ伴ヒ南軍ハ俄ニ北進シ得サルヘントノ観測ノ下ニ当地ノ時局ハ稍々小康ノ状態ヲ保チ居レルカ一般ノ觀察トシテハ南軍一度北進シ来ルニ於テハ津浦線方面ハ到底防守シ得ス結局形勢ハ急転シ奉天側ハ北京ヲ退出スヘントナス者多シ

上海、漢口、青島へ転電シ(青島ヨリ濟南へ転電セシム)
奉天、天津、張店へ暗送セリ

255 昭和3年5月10日 在中国芳沢公使より
田中外務大臣宛(電報)

張作霖の和平通電について

別電 五月十日付在中国芳沢公使より田中外務大臣宛第六〇三号
張作霖和平通電内容

北京 発
本省 5月10日後着

第六〇三号

赤禍国ヲ災シテ以来戦乱相次キ東南各省屢々惨禍ヲ蒙ル作霖挙兵ノ目的ハ共產討伐ニ在リ志ヲ同シウスルモノハ敵ト雖モ之ヲ友トス我軍ノ向フ所規律ヲ敵ニシテ民ヲ護リ外人生命財産ノ保護ニ力メタリ蓋シ内乱カ外交ニ累ヲ及ホサンコトヲ惧ルルカ為ナリ然ルニ近年広東、漢口、南京、山東各地ニ於テ国際間ノ不祥事件続発シ国内政見ノ相違ノ為事終ニ外人ニ波及スルニ至レリ此ノ儘放任スルニ於テハ独リ国家ヲ全ウン得サルノミナラス延イテ支那ニ對スルノ途ヲ失フノ惧アリ作霖茲ニ鑑ミル処アリ特ニ彰徳正太方面戦勝ノ軍隊ハ攻撃ヲ停止セシム国内政治問題ハ一ニ国民ノ公正ナル裁決ニ待チ断シテ無意義ノ主張ヲ為サス是非共ニ之ヲ輿論ニ聴カントス作霖久シク東三省ニ在リ具ニ共產ノ禍害ヲ經驗セリ故ニ赤化ヲ防キ外交ヲ慎重ニスルヲ以テ自立ノ唯一基礎トス今ヤ戦乱未タ収マラス国家ノ将来愈々危カラントス願ハクハ邦人君子相共ニ覚醒シ国家危急ヲ救ハレンコトヲ希望シテ已マス

256 昭和3年5月10日

在南京岡本領事より
田中外務大臣宛(電報)

李烈鈞が日本との衝突回避の方針を言明につ
いて

南京 5月10日後発
本省 5月11日後着
第一一五号

往電第一一二号ニ関シ

国民政府ヨリ移転先旅宿ニハ憲兵数名ヲ常派シテ護衛セシ
メ度本官出入ニハ特ニ副官一名ヲ警衛トシテ付シ度キ旨申
出アリ承諾シ置キタルカ領事館内ニモ依然従来通り憲兵十
名ヲ常駐セシメ警衛スルコトトナレリ国民政府ニ主席李烈
鈞ヲ訪ヒ一時下関移転ノ旨ヲ告ケタル際同人ハ「田中首相
ハ日本ハ決シテ飽ク迄南軍ヲ膺懲セントナスモノニ非ス張
作霖既ニ没落ノ運命ニ在リ南方政府ノ北伐完成モ遠カラサ
ルヘク同政府ト提携シテ東亞ノ平和ヲ確保スルノ意ヲ有ス
膠濟鉄道ヲ占有スルカ如キ意思ナシ云々」ト述ヘラレ「国
民政府亦日本ト事端ヲ繁カラシムルノ愚ナルハ言ヲ俟タス

257 昭和3年5月12日

在天津加藤総領事より
田中外務大臣宛(電報)

濟南事件善後処置、日本より張作霖へ関外退
去の勧告方等に関する王揖唐の内話について

天津 発
本省 5月12日前着

第六五号

五月十一日王揖唐白井へノ内話

一、濟南事件善後措置ハ日支両国間ノ最モ困難ナル問題ト
思ハルル処日本軍ハ此ノ際支那南北政府及人民ヲ敵トス
ルモノニ非スシテ人道ニ反シテ在留民ニ危害ヲ加フル乱
兵ヲ膺懲スルニ止マルコトヲ広く宣布スルト共ニ其ノ範
囲内ニ於テノミ行動スヘク南軍全体ヲ敵トスルカ如キコ
ト無カラムコトヲ希望ス

二、日本ト張作霖トノ最近ノ関係ヲ詳カニ承知セサルモ内
外南北共ニ信用無キ張作霖ヲ速ニ現地位ヨリ去ラシムル
コトハ時局收拾唯一ノ策ナルカ日本ヨリ此ノ際張ニ右勸
告ヲナシ張ヲ早キニ及ンテ関外ニ去ラシムルカ如キコト
トモナラハ日本ノ公正ナル態度愈明カトナラム

将来日本ノ指導ヲ俟ツテ統一ノ大業ヲ成シ遂ケサルヘカラ
ス旁濟南事變ニ付テモ譚延闓等ヲ派シテ蔣介石ト相謀リ日
本ノ要求殆ト全部ヲ容ルルコトトナセル次第ナリ只々武装
解除ニ依リ日本側ノ保管サレ居ル武器ノ返還ヲ希望シタル
ノミナリ北京攻略戦ニモ日本トノ衝突ヲ避クルカ為作戦變
更津浦線ニ依リテ北上スルヲ止メ專ラ京漢線ニ依ルコトト
シタリ要スルニ今後ハ仮令売国奴ト呼ハルルモ日本トノ衝
突ハ絶対ニ避クル方針ニシテ苟モ排日ガマシキ言動ハ嚴重
取締リ肯カサルモノハ戒嚴令ノ命スル刑罰ニ処スヘク金陵
中央(東南)兩大学ニ本官親シク臨ミ事情ヲ説明シ輕挙ヲ
戒メタリ云々」ト語レルニ付本官ハ従来諸事件解決並ニ排
日取締ニ関スル支那側ノ不誠意ニシテ徒ニ權謀術策ヲ弄ス
ルノ態度ヲ難シ今次ノ事變解決ハ坦懐ニ事実ヲ事実トシテ
民衆ニ媚ヒス反動ヲ恐レス公正ナル解決ヲナシ以テ此ノ際
日支ノ関係ヲ根本的ニ立直スコト統一ノ大業完成上ヨリス
ルモ必要ナル所以ヲ述ヘ置キタリ

前電通り転電セリ

三、張ヲ去ラシメタル後ニ於ケル北方政局ハ一時閻錫山ヲ
中心タラシメテ一先ツ安定セシムル要アリ馮玉祥ヲ迎フ
ルコトハ紛糾ヲ招クモノナリ一部ニ於テハ此ノ際段祺瑞
ヲ推サムト目論見居ル者アル由ナルカ自分ハ時期尚早ト
シテ是等ノ計画ニ賛成セス老段自身モ今直ニ出廬ノ希望
ヲ有シ居ラサルカ如シ是張作霖ノ如キ後ニ直ニ乗込ムコ
トハ身ヲ潔クスル所以ニ非サレハナリ

四、張作霖ノ時局通電ニ対シ段トシテ響心スル通電ヲ発ス
ル様張側ヨリ盛ニ運動シ居ルニ付何等カ意思表示ヲナサ
サルヘカラサルコトト思ハルルモ未タ決定シ居ラス通電
ヲ発スルニシテモ其ノ辞句ニハ苟モ日本ニ当ルカ如キ意
味ヲ加ヘサルヘキコト勿論ナリ

付記

王ノ内話右ノ如キニ拘ラス段派ハ予テヨリ山西側並ニ広
西、四川諸省トノ連絡ヲ策シ居リシ事実アレハ今後ノ政
府ニ対シ相当活動ヲ開始スルモノト観測セラレ
在支公使、奉天、上海、青島ニ転電セリ

258 昭和3年5月12日

在奉天林総領事より
田中外務大臣宛(電報)

関内奉天派の動静に関する情報について

奉天 発

本省 5月12日後着

第二〇七号

四月下旬以来京津方面ヨリ奉天派要人家族其ノ他当地方へ避難シ来レル者続々有リ濟南事件ト共ニ多少緩和ノ模様ナキニ非サリシモ然モ今尚絶ヘサル様子ニテ其ノ他関内送金ヲ停止セリトカ同方面ヨリ現銀ヲ当地ヘ返送シ居レリトカ張作霖今ニモ帰奉スルカ如キ風説絶ヘサルニ付一応取調ヘシメタル処当地特務機関側(脱)ニ依レハ奉天軍今後ノ作戦トシテハ京綏線ハ懷来ニ京漢線ハ保定ニ津浦線ハ静海ニ拠リ今一応防禦シ其ノ結果ニ依リ興廃略決スヘク今ノ処張作霖トシテ帰奉ノ模様モ見ヘストノ事ナルカ一方臧式毅ノ館員ヘノ談ニ依レハ今後ノ形勢不利ナル場合ハ相当ノ兵力ヲ擁シテ関内ヲ引揚クル事ハ有リ得ヘキモ今ノ処決定シ居ラス津浦線ハ滄州静海ニ拠ル計画ニテ京漢京綏方面ハ当地ニテハ状況不充分明カナラサルモ左シテ変化無キ模様ナリ

ヲ維持スルモノト称シ居ルモ大体ノ形勢ハ各線トモ既ニ戦意ナク極力軍隊ヲ北京付近ニ集中シ漸次最後ノ退却ニ向ヒテ準備ヲ進メツツアルモノト觀察セラル

事態右ノ如クナルヲ以テ一般ニ張作霖ノ北京引揚ハ既ニ時日ノ問題ニ過キストナスモノ多ク又其ノ引揚ニ関シ張ハ直ニ奉天ニ向フ事ナク一先ツ灤州迄引揚ケ各軍隊ノ集結後退ニ便ナラシメ更ニ山海関ノ守備ヲ確保スル為将来灤州ヲ保持スル予定ニテ目下同地ニ無線電信其ノ他防禦工事ヲ準備シツツアリトノ聞込アリ一面張作霖ハ其ノ引揚前閻錫山ト和議ヲ為シ閻ヲ北京ニ引入レント目論見ツツアリトノ説及最近段祺瑞派ノ下ニ蒋介石ノ密使来リ段ノ出馬ヲ求メ張作霖ヲ追ヒ出シ段ヲシテ一時時局ヲ收拾セシメントスル計画アリテ姚震等之力運動ヲ進メツツアリトノ説等伝ヘラレ居ル処右ノ内灤州防禦説ハ各方面ノ情報一致シ居リ事実ナリヤニ認メラル

奉天、哈爾濱、張家口、青島、上海、南京、漢口、広東へ
転電シ青島ヨリ濟南へ転電セシム
天津へ暗送セリ

四 国民革命軍の北伐関係

云々

時節柄御参考迄

在支公使、天津へ転電セリ

259 昭和3年5月12日

在中国芳沢公使より
田中外務大臣宛(電報)

北軍漸次退去の準備を進めつつある状況について

北京 発

本省 5月12日後着

第六二二号(極秘)

往電第六〇一号ニ関シ

其ノ後ノ大元帥府内ノ空気が漸次消極的ニ傾キツツアリ京漢線方面ノ軍隊モ兩三日来更ニ後退シ既ニ主力ヲ保定ニ移シ前線ヲ石家莊迄引揚ケタル模様ニテ第一防禦線ハ正定ヲ中心トシ薄沱河ニ沿ヒテ河南山西兩軍ヲ併セ防禦スル様配置シ最後迄此ノ線ヲ守備スヘントノ事ナルカ一方山西北部ノ軍隊モ一部ハ既ニ涿源及比阜平ニ後退セリトノ説アリ政府側ニテハ和平通電ノ結果戦線ヲ短縮スル以前防禦的攻勢

260 昭和3年5月14日

在中国芳沢公使より
田中外務大臣宛(電報)

張家口における対日感情悪化のため領事館員
婦女子の引揚げについて

北京 発

本省 5月14日後着

第六三八号(至急)

張家口発本使宛電報

第一七号

大臣へ転電アリタシ

第二〇号(至急)

当地ニ於ケル対日悪感状況ハ屢々電報セル通ナルカ其ノ後益々深刻ニシテ中流以下ノ社会ハ濟南事件ヲ日支戦争ナリト誤伝シ当地在留ノ日本人ニ対シテハ俄ニ洋鬼子呼ハハリヲ為シ奉軍撤退ト共ニ殺害スヘントノ伝説遠ク郊外地方迄拡カリ反奉土匪団体盛ニ之ヲ宣伝シ居ル情報盛ナリ唯現在之カ公ニ宣伝セラレサルハ一ニ奉天軍ノ取締嚴重ナルカ為ナリト確信ス依テ館員婦女子ハ明十五日午前二時発ノ汽車ニテ先ツ北京ニ旅行セシムルコトトシタリ

右ノ次第二付今後ノ狀況如何ニ依リテハ書類其ノ他ヲ適宜ニ処分シ領事館モ北京迄撤退スルヲ適當ト認メラル

261 昭和3年5月14日

在南京岡本領事より
田中外交大臣宛(電報)

黄郛より領事館の城内帰還要請の伝言について

下 関 5月14日後発
本 省 5月15日前着

第一二六号

五月九日前後共產分子多数ニ入込ミ不穩ノ計画アリトテ警戒嚴重ヲ極メテ前線ニ在ル朱培徳ノ第四十七軍中二師ヲ呼戻シ警備ノ任ニ当ラシムルコトナリタル趣ナルカ往電第一二三号会见ノ際袁良ハ第一ニ黄郛ヨリノ伝言ナリトシテ本官ニ対シ是非即時城内ニ帰還セラレタク城外旅宿等ハ警衛充分ナラス兩國間事端ヲ滋カラシムル目的ノ為如何ナル事件ヲ起サストモ限ラレス若シ城内帰還ヲ欲セサルニ於テハ軍艦ニ移居セラレタシト云ヒ現ニ共產黨員ノ為一建設委員殺害セラレ本官ノ身辺ニ付テモ兎角不穩ノ巷説アリト

在支那

特命全權公使 芳沢 謙吉(印)

外務大臣男爵 田中 義一殿

北軍濟南敗退後ニ於ケル当方面一般情況

報告ノ件

客月三十日北軍ノ濟南撤退ニ伴ヒ当方面ハ一般ニ俄ニ不安ヲ感スルニ至リ之カ為奉天、天津方面ニ避難者統出シ又銀行ノ取付等モ行ハレツツアル処最近ニ於ケル概況左ノ通

一、本月初ヨリ京奉鐵道ニ依リ奉天、天津方面ヘノ避難者夥シキ数ニ上リ殊ニ午後八時十分発ノ列車ハ軍人家族ノ無賃乗車券有効ナル為混雜ヲ極メタルカ其後濟南事件勃発シ南軍ノ進出遅緩ナル為幾分緩和セルモ奉天派要人家族ノ引揚等統々行ハレツツアリ

一、北軍ノ敗退ハ金融方面ニモ影響ヲ及ホシ基礎薄弱ナルカ若クハ政府ト密接ナル關係アリト思惟セラル銀行等相当ノ打撃ヲ受ケ居レリ即当地中国墾業銀行及辺業銀行發行ノ兌換券ハ本月初ヨリ流通円滑ヲ欠キタルカ次テ中国糸茶銀行、勸業銀行ハ本月五日頃ヨリ緩慢ナル取付ニ遇ヒ殊ニ八日勸業銀行ハ数百名ノ兌換要求者殺到スルニ及

熱心ニ説キタル処本官ハ日々一、二回城内ニ往復致居リ何等危険ヲ感シ居ラサルモ不便ナル点ハ館員ト共ニ痛切ニ感シ居リ相成ルヘクハ速ニ城内帰還ヲ欲セサルニ非ラサルモ軍艦側ニ於テハ其ノ職責上是非共現狀ノ儘トサレタク城内引揚ケハセメテ濟南事件一段落ヲ告ケタル上トセラレタシト主張シ支那側申出ハ不純ノ目的ニ出テタルヤモ計リ難シト穿チタル観測ヲ致居レリ乍併本官ハ屢次申上ケタル通り國民政府現狀ヲ維持シ居ル以上何等不安ヲ感セス寧ロ危険ハ北伐完成後ニ在リト思料シ居レル次第ナルモ海軍側意向ヲモ尊重シ現地ニ於ケル交渉一段落ノ後城内ニ帰還スヘク館内修理ハ続行セシムル積リナリ御含迄

北京、上海へ転電セリ

262 昭和3年5月14日

在中国芳沢公使より
田中外交大臣宛

北軍の濟南撤退後における北京方面の情況について

機密第五七五号

昭和三年五月十四日

(5月22日接受)

ヒ銀行側ハ不得已一人三十元ヲ限度トシテ兌換ニ応シタルカ其後兌換要求依然止マサル為遂ニ一人ニ付兌換額ヲ十元ニ制限シタル趣ナリ又中国糸茶銀行ハ其後一時平靜ニ歸シタルモ十日突如休業スルニ至レリ其他二三銀行業者ノ取付ヲ伝ヘラレタルモ差シタルコトナカリシ模様ナルカ時局ノ進展ニ伴ヒ尚動搖ハ免レサルモノト認メラル右何等御参考迄報告ス

263 昭和3年5月16日

在中国芳沢公使より
田中外交大臣宛(電報)

奉天軍の士氣沮喪について

北京 発
本 省 5月16日前着

第六三九号(至急)

往電第六二二二号ニ関シ
(二五九文書)

津浦線方面ニテハ更ニ德州ヲ抛棄シ同地ノ北軍ハ十一日頃ヨリ滄州ニ退却シ又京漢線ニテハ馮玉祥軍既ニ石家莊ニ至リ奉軍ハ前線ヲ保定ニ引揚ケタル模様ナリ尚十三日張作霖ハ江藤ニ対シ奉天軍ハ既ニ各主力ヲ滄州、保定及懷來ニ集

結シ最後ノ抵抗ヲ為ス予定ニ付約一週間後ニハ激戦ヲ見ルヘシト語リタル由ナルカ奉天軍ハ先日ノ張作霖ノ停戰發令以來殊ニ士氣沮喪シ居ルカ故ニ果シテ戰意アルヤ否ヤ一般ニ疑問トサレツツアリ一般ノ形勢ヨリ判スルニ茲一週間ノ中ニ或ハ急激ナル変化ヲ見ルヘキヤニ觀測セラル奉天、天津、青島、濟南、上海、南京、漢口、張家口、廣東、閩東庁長官ニ転電セリ

264 昭和3年5月16日

在奉天林総領事より
田中外務大臣宛(電報)

奉天軍は灤州において決戦を試みる戦略なる

旨の吳俊陞の内話について

奉天 発

本省 5月16日後着

第二一一号

吳俊陞今朝帰奉館員ニ語レル内話要領左ノ通

京漢線ニ於ケル奉天軍ハ既ニ石家莊ヨリ定州迄後退セシモ右ハ敗戦ノ結果ニ非スシテ戦線縮小ノ為ニ外ナラス同方面ニハ奉天軍約十方有リ目下其ノ配置ニ付忙殺サレツツアリ

二、蔣介石ニシテ若シ京津方面ニ進出シ来ランカ李宗仁等

ノ広西派ノ離反劉湘ヲ主席トシ周西成ヲ副主席トスル川貴州雲南諸將ノ団結ノ圧迫ニ依リ南京ニ於ケル現在ノ地位ヲ保持シ得サルニ至ルヘキヲ以テ蔣軍北進ヲ続クルモノトスルモ中央ノ大局ハ結局閻馮ノ兩人ニ依リ收拾サル事トナルヘシ併シ馮ハ信望足ラス国家ノ政務ヲ処理シ得ル人物ニ非サルヲ以テ北方ハ結局ハ閻錫山ヲ中心トスルニ至ルヘキカ

三、馮閻間ノ關係円滑ヲ欠キ第二ノ紛糾ヲ見タルカ如キ場合ニ於テモ張作霖ハ最早再ヒ中央ニ進出スル事ハ先ツ不可能ト見ルヘキナリ

四、南京北伐軍ハ濟南事件ニ依リ立証サレタル通素質不良ニシテ若シ京津地方ニ来ルヲ許サハ如何ナル不祥事ノ再発スル無キヤ保シ難ク日本ノ出兵ノ理由タル居留民保護モ出来難クナル訳故日本側ニ於テ同軍ノ北進ヲ阻止サルル方適當ナラスヤト思考ス

五、時局收拾ノ見込立タハ自分ハ何時ニテモ出慮ノ用意有リ

在支公使、奉天、青島、上海、南京へ転電セリ

津浦線方面ノ奉軍ハ滄州ヲ防守中ニテ張作霖ハ北京ヲ死守スル決心ニ付京津方面ニテハ激烈ナル戦鬪行ハルヘク奉軍不利ニ陥ルトモ南軍ノ天津北京押寄せ迄ニハ尚相当ノ時日アルヘク形勢未タ切迫シ居ラサルニ付余ハ後(方々)防軍務整理ノ為帰奉シ三四日後一時齊々哈爾ニ帰ル予定ナリ奉軍ハ結局灤州ニ於テ決戦ヲ試ムルコトニ戰略成リ居リ滄州陥落ノ報ニ接セハ余ハ再ヒ晋京スル考ヘナリ云々

265 昭和3年5月17日

在天津加藤総領事より
田中外務大臣宛(電報)

段祺瑞の時局談話について

天津 発

本省 5月17日後着

第七八号

五月十七日段祺瑞ノ本官ニ対スル時局談左ノ通

一、張作霖ハ北京退出ノ時機ヲ失シ今ヤ力ニ押サレテ退出ヲ余儀ナクサレタル形ナルニ付最早中央ノ政局ヲ平和裡ニ收拾スルノ見込無キニ至レリ

266 昭和3年5月18日

在中国芳沢公使より
田中外務大臣宛(電報)

266 昭和3年5月18日

在中國芳沢公使より
田中外務大臣宛(電報)

滄州、保定方面などの戦況について

北京 発

本省 5月18日前着

第六五九号
往電第六三九号ニ関シ

滄州方面ノ戦線ハ南軍ノ北進停頓シ居ルカ為稍々小康ヲ保チ居ルモ南軍ノ主力濟南ヲ通過シ得ハ北軍ハ滄州ヲ維持シ得サルヘク又保定方面ニ於テハ其ノ後山西軍及河南軍逐次北進シテ緊張ヲ増シツツアリ大元帥府側ノ消息ニ依レハ十四日迄ニ望都ノ南方清風鎮ニハ山西軍一萬位到着シ其ノ背後ニハ馮玉祥軍アリ又石家莊ニハ既ニ馮軍一萬五千位集中シ山西軍モ混在シ居ルトノ事ナリシカ其ノ前線ハ既ニ方順橋ニ達シ十四日頃ヨリ同地ニ於テ前哨ノ衝突開始セラレ現在引統キ小部隊ノ交戦継続セラレツツアル模様ナリ他方十五日張作霖ハ前線ヨリ楊宇霆及張學良及孫傳芳ヲ召集シ即日軍事會議ヲ開キタル結果結局尚最後ノ一戦ヲ試ミル事ニ

決定シタル由ニテ是等各將領ハ全部翌十六日早朝急遽夫々前線ニ歸レルカ既ニ軍隊ノ士氣著シク沮喪シ主ナル諸將モ亦勝算ニ確信無キモノノ如ク一般ニ南軍カ濟南ヲ通過シ得ハ先ツ天津危ク然ラサルモ京漢線方面ノ南軍ノ北京乗込モ遠キニアラサルヘシト觀測シ居ルモノノ如シ尚十五日夜ヨリ夜中大元帥府ニ接近スル市内ノ一部ニ戒嚴令布カレ交通禁止セラレタルカ市民中ニハ右ハ大元帥逃出ノ準備ナリトノ噂ヲ生セリ奉天、天津、濟南、青島、上海、南京、漢口、廣東、張家口、關東庁長官ヘ転電セリ

267 昭和3年5月21日

在中国芳沢公使より
田中外務大臣宛(電報)

京綏方面に於ける奉天軍の戦況等について

北京 発
本省 5月21日後着

第七〇二号

山崎ヨリ

第二七号

第六八号
動乱ノ中心漸ク京津地方ニ移ラントスル為我海軍ニ於テハ第九驅逐隊ニ大沽及龍口兩地ノ警備ヲ命シ芝罘ニハ海防艦常警ヲ青島ヨリ回航セシムルコトトナリ明二十二日当地ニ於テ事務引継ヲ為ス筈ナリ
尚常警ハ乗組員約六百ノ外陸戦隊三百ヲ有シ当地警備ニハ十二分ト認メラル
前電ノ通転電セリ

269 昭和3年5月22日

在南京岡本領事より
田中外務大臣宛(電報)

王交通部長の時局談話について

南京 発
本省 5月22日前着

第一三八号

二十一日王交通部長ノ時局談話左ノ通

一、北京陥落後馮玉祥ト蔣介石或ハ閻錫山トノ間ニ軋轢生スヘシトハ何人モ懸念スル処ニシテ馮玉祥ノ人物ニ就テハ自分亦全然信賴シ得ス乍併蔣介石、閻錫山、李濟深

諸種ノ情報ト通過途中ノ見聞ヲ綜合スルニ京綏方面ノ奉天軍ハ十五日大同ヲ拋棄シテ数時間ニ亘ル掠奪ヲ行ヒ十七日以来柴溝堡ニ主力ヲ置キ張作相、汲金純ハ北京ニ来リ高維嶽、湯玉麟ハ軍隊ヲ率ヒテ漸次懷來ノ陣地ニ向ヒツツアリ于芷山ハ蔚州ヨリ高及湯軍ト連絡ヲ取り下花園ニ向フ模様ナレハ奉天軍ノ前線ハ二十一日頃張家口ノ線ヲ通過シ二十七、八日頃懷來ニテ接戦アルモノト判断セラル目下下花園ニ約一師懷來、^(康莊カ)黃莊間ニ約一師ノ兵滞留セリ又奉天ノ退却軍用列車ハ下花園、^(康莊カ)黃莊間ニ十五列車停滞シ^(康莊カ)黃莊ニテハ八達嶺通過ニ要スル特別機關車不足ノ為混雜ヲ極メ居ルモ南口以南ニハ殆ト停留列車ナシ懷來ニハ現ニ防禦工事最中ナルモ最近盛ニ軍隊ヲ灤州方面ニ輸送スル模様ヨリ判断スレハ右ハ最後ノ決戦地ト觀察シ難シ

268 昭和3年5月21日

在芝罘森岡領事より
田中外務大臣宛(電報)

常警艦の芝罘回航など海軍の動向について

芝罘 発
本省 5月21日後着

(李宗仁ト共ニ)馮玉祥四巨頭中前三者ハ完全ニ意思疏通シ居リ李宗仁カ武漢ニ於テ蔣ニ反対ノ態度ニ出ツルカ如キコトハ絶対ニ無キヲ以テ馮玉祥不逞ノ拳ニ出ツル場合右三者結合シ之ニ當ラハ毫無恐ルルニ足ラス南京政府ニ於テ馮派多数ヲ占ムルカ如キ觀ヲ呈シ居ルモ事實馮ヲ代表シ居ル者ハ内政部長薛篤弼及熊斌ノミ張之江ノ如キハ本來馮ノ下ニ居ルヲ得スシテ当地ニ逃レ来レル者ナリ李烈鈞ハ從來ノ關係上幾分好意ヲ有スルカ如キモ本來馮玉祥ヲ指導スルカ如キ態度ニ出テ居ル次第ナルヲ以テ北伐完成全國統一ニ支障アリトセハ馮ニ反対スヘキハ当然ナリ

一、中央政府所在地ニ就テハ總理ノ遺志ニ依リ南京ト定ムヘシト主張スル者多キモ当地ハ何等ノ設備無ク且對外關係ニ於テモ差当リ北京ヲ首都ト為スヲ得策ト思考シ居リ自分等同志ニ於テハ之ヲ主張スル考無ク而シテ地勢上政略上等南京ハ將來ノ首都トシテ適當ト思考スルニ付徐ニ諸般ノ施設ヲ為シ移転スルヲ可トス
一、濟南事件ニ関スル日本ノ要求ニ就テハ一同甚タ危懼ノ念ヲ抱キ居リ日本ニ於テ領土的野心ヲ有セサルハ確信ス

ル処ナルモ膠濟鐵道ニ付何等ノ要求ヲ提出サルルニ非ス
 ヤト懸念シ居レリ同鐵道局長ニハ日本側ニ好評ナル路政
 司長趙世瑄ヲ任命セシ次第ナリト語レルニ付本官ハ日本
 ニ於テ領土的野心ヲ有セサルハ累次声明セシ通ニシテ膠
 濟鐵道ニ對シテモ日支間山東細目取極ニ基ク要望以外何
 等求ムル処無シト信スト答ヘ置ケリ
 公使、天津、濟南、青島、上海、漢口ニ転電セリ
 上海ヨリ広東ヘ転電ヲ請フ

270 昭和3年5月24日

在南京岡本領事より
 田中外務大臣宛(電報)

北京入城、遷都問題等に関する譚延闓、李烈
 鈞の談話について

南京 発
 本省 5月24日 前着

第一四六号

二十二日譚延闓ト会见セル処大要左ノ通語レリ

一、北京へ最初ニ入城スヘキハ近距離ニ在ル關係上山西軍
 ナルヘク閻錫山又出馬スヘシト思考スル処北京ノ治安ハ

敢市外二三十里ノ地点ニ止マラシメ各部隊駐屯ニ関スル
 詳細ナル命令發セラレ居レリ馮ハ不満ナルヘキモ一時河
 南ニ占拠スル外ナカルヘク蔣ハ南京ニ帰ル事トナルヘシ
 是等主将間ノ關係ニ付坊間種々ノ説アルモ自分ハ樂觀シ
 居レリ即チ彼等自身モ多年惡戰苦闘ノ後漸ク目的ヲ達セ
 ントスル此ノ際相争フテ信ヲ國民ニ失墜スル事ノ愚ナル
 事及戰禍ノ恐ルヘク此ノ上ノ戰闘不可能ナルハ充分之ヲ
 意識セルヲ以テ適當ナル組織成立セハ之ニ從ヒ多ク自己
 主張ヲ為ササルヘシ中央ニ於テモ此ノ点ニ付テハ大ニ考
 慮ヲ重ネ大体現在ノ如ク中央党部ノ下ニ是等主将ヲ置キ
 多ク権限ヲ付与セス最近閻錫山馮玉祥ヲシテ重ネテ中央
 ノ命ヲ奉シテ北伐ニ向フ旨声明セシメタルモ此ノ意ニ外
 ナラス凡テハ北京陥落後開カルヘキ第五回全体會議ニ於
 テ決定スヘシ

一、北京克復後ニ於ケル首都問題ニ関シテハ種々ノ議論ア
 ルモ總理ノ遺志ヲ継イテ南京ヲ首都ト為スノ説多ク一時
 的北京遷都説ハ未タ少数ナリ之亦全体會議ノ議決ニ俟ツ
 筈ナリ自分ハ過般御話シタル通北京ニハ特別機關ヲ設ケ
 重要人物ヲ派遣スルコトニ付主張スル積リナリ

革命軍ノ入城ニ先立チ之カ維持ニ任スルモノ擡頭スヘキ
 様感セラルル乍併右ハ楊宇霆張學良等一派トノ妥協ヲ意味
 スルモノニ非ス

一、遷都ハ新興國ノ重要事ニシテ輕々ニ之ヲ決定スヘカラ
 ス北京ハ腐敗ノ都ナレハ同地ヘノ遷都ハ考ヘ物ナリ何レ
 北京方面一段落着キタル上ニテ之カ決定ヲ見ルヘシ

一、北伐完成後ノ最重要事ハ裁兵ニシテ李宗仁ノ提議セ
 ル同問題ニハ何人モ賛意ヲ表ス

人民困憊ノ極ニ達セル今日之カ救済問題ハ裁兵タニ実行
 シ得ナハ容易ニ解決シ得ヘシ

一、北京克復後馮閻等有力者間ニ内訌ヲ生セサルヤノ懸念
 ハ尤モナルモ既ニ國民黨ノ時代トナリ馮閻トモ南方ノ主
 義主張ニ賛同シテ北伐ニ加担シタル以上私慾ノ為ニ相争
 フカ如キ觀ヲ外部ニ与フルコト無シト信ス

同日李烈鈞ノ時局談左ノ通

一、北京克復後ハ閻錫山ヲ同地ニ据エ其ノ軍隊ヲ以テ治安
 維持ニ当ラシムヘシ右ハ閻カ其ノ部下ニ多数ノ日本留学
 出身者ヲ有シ日本側トノ接洽ニ便ナル点ヲモ考慮セルモ
 ノニシテ天津ヘハ馮玉祥軍ヲ入ルル事ト為シ居ルモ不取

一、程潜ノ監禁ハ彼ト李宗仁トノ意見相容レス遂ニ大衝突
 ヲ來シタルニ依ルカ如シ李ハ程ノ各種罪惡ヲ挙ケテ処罰
 ヲ求メ來レリ程潜ノ部下ハ大部分旧唐生智ノ部下ニシテ
 程直屬ノ部隊ハ少数ナルヲ以テ左シタル混乱モ起ラサル
 ヘシ

公使、天津、青島、九江、漢口、蕪湖、蘇州、杭州、厦
 門、汕頭、上海、福州、濟南ニ転電セリ

上海ヨリ広東ニ転電ヲ請フ

271 昭和3年5月27日

在南京岡本領事より
 田中外務大臣宛(電報)

蔣・閻・馮三者間關係ならびに南北兩軍に對
 する日本の覚書等に関する熊斌の談話につい
 て

南京 発
 本省 5月27日 後着

第一五九号

本二十六日朝馮玉祥ノ正式代表ニシテ軍事委員タリ政府會
 議ニモ毎回列席シ馮ノ意見ヲ代表シ居レル熊斌來訪正午過

キ迄会谈セルカ其ノ大要左ノ通

一、蔣介石閻錫山馮玉祥三者ノ間ハ完全ニ意思疏通シ居リ
曩ニハ蔣閻二者一致シテ馮ニ對抗スト宣伝シ最近ハ馮閻
間特ニ密接トナリタル為馮閻間不和ナリト伝ヘ居レル処
右ハ総テ安福派策士ノ流布セル謠言ニ過キス三者ノ連繫
ハ單純ナル辞令上又ハ利害上ヨリ成リタルニ非ス主義主
張ヲ同シクシ全國統一ヲ目標トセル次第ニシテ特ニ曩ニ
蔣介石宋子文ト共ニ馮玉祥往訪後

(一) 各自地盤ヲ有セサル事

(二) 戦時終リ次第軍隊ヲ統一シ裁兵ヲ行フ事

(三) 軍費ハ総テ中央ノ負担トナス事等意見完全ニ一致シ

(四) 京津攻略後馮玉祥軍ハ保定付近ニ駐屯シ北京城内ハ山

西軍ノミ治安維持ニ任シ

(五) 天津ヘモ攻略後ハ山西軍ヲ入ラシムル筈ナルモ右ハ或

ハ變更サルルヤモ知レズ

(六) 馮玉祥ハ当分新郷ニアリ決シテ単独ニ北京入りヲ為サ

ス若シ必要アラハ蔣介石ト同行スル事ニ話合ヲ遂ケア

リ兎ニ角京津ニ於テハ外国軍隊トノ接触ハ絶対ニ避ケ

ル方針ナリ

カ接近ノ方法モカナト考ヘ居リ松室中佐ノ傭聘ヲ求メタ
ルモ在東京馬伯璦ヨリ同中佐ハ応シ難キ旨申来リ失望シ
居レル次第ナルカ若シ松室氏応諾セハ同時ニ二、三顧問
ヲモ招聘シ度ク考ヘ居レリ
公使、上海、天津、濟南、青島、漢口、福州ニ転電セリ
上海ヨリ広東ニ転電ヲ請フ

272 昭和3年5月28日 在天津加藤総領事より
田中外務大臣宛

姚震の張作霖出関後の北京政局に関する観測
について

機密第三一二号 (6月4日接受)

昭和三年五月二十八日

在天津

総領事 加藤 外松 (印)

外務大臣男爵 田中 義一殿

姚震時局談報告ノ件

五月二十七日姚震ノ白井副領事ニナシタル時局ニ関スル内
話要領御参考迄左ノ通報告ス

二、日本今次ノ覚書ニ對シテハ世上種々憶測ヲ逞シウセル
モ馮玉祥ハ全然悪意ヲ有セス即チ伝ヘラルルカ如ク張作
霖ヲ援助サルルカ如キ事無ク且滿州ニ於テ領土的野心ヲ
有セラレサル限り日本ノ經濟的發展ハ当然ノ事ニシテ毫
モ怪シムニ足ラス他日中日協同適宜解決シ度キ所存ナリ
三、然ルニ天津ヨリノ通信ニ依レハ張作霖曩ニ趙欽伯ヲ日
本ニ遣ハシ後又莊璟珂ヲ派遣シテ日本政府ニ歎願スルト
共ニ秘密条約ヲ結ヒタル結果張作霖ハ北京退去ヲ思ヒ止
リ決戦ノ臆ヲ固メタリト言フ右様ノ事實アリトセハ國民
革命軍ハ遂ニ日本ト戦ハサルヘカラサルニ至ルヘシ(斯
ノ如キハ絶対無根ニシテ假令趙、莊ノ如キモノ渡日スル
トモ我カ政府ハ彼等如キニ動カサル事断シテ無シト申
聞ケ置ケリ)

四、京漢線方面南軍振ハストノ宣伝アルモ未タ兩軍ハ衝突
シ居ラス南軍ハ李宗仁軍ノ渡河ヲ俟ツテ一挙ニ北軍殲滅
ノ計画ニシテ李軍ハ既ニ其ノ大部分江ヲ渡リ一兩日中輸
送完了スヘク勝算歴々タリ

五、馮玉祥ハ兎角日本側ニ誤解サレ居ル処将来日本ト親善
ナラスシテ何事モ為シ得サルハ言ヲ俟タサルヲ以テ何等

一、張作霖ニシテ速カニ撤退スレハ南京政府決定ノ通山西
軍京津地方ニ入り同地方治安乱ルルコトナカルヘキハ勿
論閻錫山ト段祺瑞トノ關係ニ顧ミ段ノ出慮ヲ易カラシメ
北方政局ハ比較的早ク安定スルニ至ルヘキモ之ニ反シ馮
軍来ルニ於テハ赤露ノ勢力ハ本国ヨリ直チニ北支ヲ經テ
日本ヲ脅スニ至ルヘク兩國ノ危險此上ナカルヘシ

二、馮軍ノ入京ヲ防クニハ各国軍特ニ日本軍ノ力ニ特ツ外
ナシ日本軍ニ於テ京津一帶ニ何レノ軍ヲモ入ラシメサル
ノ態度ヲサヘ示サハ馮ハ日本軍トノ衝突ヲ覚悟シテ進軍
ヲ進ムルモノニ非スソレニハ日本軍カ北京天津ニ各一個
旅団位ノ兵ヲ用意シ京津不可侵ノ警告ヲ發スレハ足ラン
三、張作霖出関後ノ京津治安維持ニ付テハ奉天派ト段派ト
ノ間ニ内密ノ相談モ進ミ居リ段派カ其衝ニ当ルコトナ
ルヘキモ段ハ直チニ入京セス北京ニハ不取敢代表ヲ派シ
テ警察其他ト連絡シ治安維持ニ當リ其内各方面ヨリノ勸
告アルヲ待チ徐ロニ出慮スルナラン

四、白崇禧軍ノ北上ハ表面北伐参加ト称シツツアルモ或ハ
馮ニ備フル李宗仁ノ策ナルヤモ知レス程潛ヲ処分シタル
ハ馮ト程トノ間ニ武漢占領ノ陰謀アリタルコト發覺セル

カ為ナリトモ伝ヘラレツツアレハ広西派ハ既ニ今後ノ戦局ニ対シ予メ準備ヲ開始セルモノニ非サルカ

因ニ王揖唐、吳光新等ハ姚カ段祺瑞擁戴ヲ余リ露骨ニ又盛ニ運動シツツアルヲ段ノ為メナラストテ面白ク思ハス二十七日姚ニ注意意見スル所アリタル由ナルカ段ノ真意トシテハ往電第七八号五ノ通各方面ヨリノ推戴アリ国家ノ為其出(二六五文書)廬ヲ必要トスル時期ニ至ル迄ハ自重スルモノト観測セララル本信写送付先 在支公使、在奉天、上海、青島各総領事

273 昭和3年5月30日

在奉天林総領事より
田中外交大臣宛(電報)

張作霖の帰奉問題に関する吳俊陞の談話につ
いて

奉天 発
本省 5月30日後着

第二五一号

三十日本官吳俊陞ニ面会ノ節吳ノ談ニ依レハ五月二十五日付公第三八六号商總會丁広文及省議会議副会長谷耀山北京ニ至リ大元帥ニ帰奉方願出タルモ張ハ依然飽ク迄決戦スヘシ

一、其ノ後元帥府側ニテハ馮玉祥軍カ京漢津浦兩線ノ中間ヨリ漸次河間高陽方面ニ發展シ先ツ保定天津間ノ自動車路ヲ中断シ更ニ京津間ノ鉄道ヲ遮断セントスル計畫アリト認メ主力ヲ河間方面ニ注クコトトシ大城河間ノ線ニ孫傳芳軍ヲ又高陽任邱及河間一帶ニ戡翼翹、于学忠及富雙英ノ軍ヲ配置シ兩線ノ連絡既ニ成リ二十八日同方面ニ対スル總攻撃令ヲ発シタル由ナルカ之ト前後シテ馮軍及山西軍モ亦漸次活動ヲ開始セリトノコトニテ一般ニ近ク激戦ヲ見ルヘシト予期セラレツツアリ

一、一方山西軍ハ専ラ京漢線及其ノ西部ヲ担任シ居ル模様ナルカ前記ノ如ク京漢線ノ奉天軍カ主力ヲ中路ニ移動シタルニ乗シ山西軍ハ望都ニ進出シ完州ヨリ保定ノ西北部ニ發展シ二十八日既ニ滿城ヲ占領シ保定ノ背後ヲ脅シツツアル由ニテ現ニ三十日夏仁虎ハ有野ニ対シ滿城ヲ占領シタルハ山西軍ノ主力ニシテ同方面ノ北軍手薄ナル為稍々憂慮スヘキ状態ニアリト語リタル由ナリ

一、尚三十日朝来京漢鐵路局及稅務署方面ノ情報トシテ奉天軍ハ前夜夜半ヨリ保定退却ヲ始メ司令部ヲ琉璃河ニ移シタリ等ノ説伝ヘラレ又津浦線方面モ二十八日及二十九

トテ聴カサリシ由ニテ真ニ困リタル事ナルカ結局戦局何レカニ決定セサレハ帰奉ノ有無判明シ難キ処勝敗ノ如何ニ拘ラス奉軍大部隊ノ帰奉ハ鉄道ニ依ラス京榆路即チ熱河方面ヲ通スル路ニ依リ帰ルヘク之カ道程ハ関内約七百支里関外八百支里日数二十二、三日ヲ要スヘシト語レリ又奉天軍勝タハ張ハ尚北京ニ留ルヘキ処万一敗ルルモ自分(吳)カ東三省總司令タル地位ニ就クカ如キ事ナク張学良其ノ他ナルヘシトテ此ノ点ニ触ルル事ヲ避ケタキ素振り見ヘタリ御参考迄

北京へ転電セリ

274 昭和3年5月31日

在中国芳沢公使より
田中外交大臣宛(電報)

奉天軍の保定退却など北方戦況に関する情報
について

北京 発
本省 5月31日前着

第七六三号

往電第七四〇号ニ関シ

日ニ亘リ大城及滄州ヲ退却シ始メタルヤノ風説アリ何レモ未タ真偽判明セサルモ一般ニ北軍ハ首腦者側ノ積極的ナルニ拘ラス前線軍隊ハ士氣沮喪シ居ル為開戦ノ晝ハ到底現在ノ戦線ヲモ維持シ得サルヘシト観測スル者多シ

一、尚張学良、楊宇霆及孫傳芳ハ張作霖ノ招電ニ依リ三十日朝入京セリ

奉天、上海、南京、濟南、青島、漢口、廣東へ転電セリ

275 昭和3年5月31日

在中国芳沢公使より
田中外交大臣宛(電報)

北軍は続々退却しつつある旨の大元帥府より
の消息について

北京 発
本省 5月31日前着

第七七二号

往電第七六三号ニ関シ

其ノ後大元帥府ヨリ得タル消息ニ依レハ山西軍カ保定ノ背後ニ廻リシ為張作霖ハ三十日奉天軍司令部ヲ保定ヨリ琉璃河ニ引揚方ヲ命令シ只今北軍続々退却シツツアルモノノ如

シ張作霖ハ尚元氣ヲ装ヒ居ルモ楊宇霆、張学良等ハ琉璃河線ヲ維持スル間ニ閻錫山及蔣介石ト妥協ヲ計ラントスルモノノ如ク此等代表者ハ現ニ大元帥府ニ来リ居ル由ナルカ故ニ琉璃河線ニ退却スルモ或ハ近ク何等急変アルヘキヤニ観測セラル
転電先往電第七六三号ノ通

276 昭和3年6月(5)日 在中国芳沢公使より
田中外務大臣宛(電報)

治安維持会の北京警備状況について

北京 発
本省 6月5日後着

第八一二号

張作霖出関後当地ニ居残レル閣員羅外交、沈内務、王司法ノ各総長等ハ楊宇霆、張学良及陳興亜等ト共ニ四日夜何レモ離京シ閣員全部不在トナリタルカ(楊及張ハ軍隊ノ集合及撤退指揮ノ為楊村ニ滞在スヘシ)往電第八〇九号王士珍ヲ會長トスル治安維持会ハ其ノ内ニ外交、交際、軍警、財政、教育ノ五股ヲ設ケ巡警一万一千、鮑毓麟軍五千、王琦

ヘク前線ヨリ後退ノ部下軍隊ヲシテ租界付近二十支里ニ入ラサル為各部隊ニ通告ヲ発スル等有効ノ措置ヲ採リツツアリ

三、右ノ趣旨ハ何レ交渉員ヲ通シテ各国領事並軍側ニ正式ニ通知スヘキ筈ナレトモ日本側ニ対シテニ先ツ其ノ意ヲ通達スル為差遣サレタリ
在支公使、奉天、青島ヘ転電セリ

278 昭和3年6月(6)日 在天津加藤総領事より
田中外務大臣宛(電報)

京奉、津浦兩線方面における奉天軍、直魯軍部隊の退却情况等について

天津 発
本省 6月6日後着

第一四六号

一、京奉線ニ依ル奉軍退却ハ連日引続キ行ハレツツアリテ当地ヲ通過シ北上セル軍用列車ハ六月三日十七個列車、四日二十五個列車、五日二十一個列車アリ一個列車ニハ兵員約一千名ヲ搭載スルモ中ニハ什器、家具類ヲ満載ス

ノ憲兵一千計一万七千ノ軍警ヲ擁シ当分ハ市内ノ治安及内外ノ政務ニ当ルコトトナル筈市内ハ警備嚴ニシテ平穩ナリ在支各領事ヘ転電セリ

277 昭和3年6月(6)日 在天津加藤総領事より
田中外務大臣宛(電報)

張宗昌など北方将領の動静に関する情報について

天津 発
本省 6月6日前着

第一二五号

山東高等検察厅长兼直魯連軍總司令部外交参贊邱任元、張宗昌、褚玉璞、孫傳芳ノ代表ナリトテ六月五日來訪左ノ通語レリ

一、孫傳芳ハ張学良、楊宇霆ト共ニ北京発列車ニテ五日北倉ニ到リ同地ヨリ自動車ニテ当地ニ到着張宗昌、褚玉璞ト会谈ノ結果從來ノ通五色旗ノ下ニ天津ヲ固守スルコトニ三將領ノ意見一致シタリ

二、天津治安維持ニ付テハ前記三將領協同シ其ノ責ニ任ス

ルモノモアレハ輸送済ノ兵員總數ハ詳ナラス五日來津セル張学良、楊宇霆等ハ一時軍糧城ニ司令部ヲ設クヘシト伝ヘラレタルモ爆彈事件ヲ聞キ其ノ他奉天要人ト共ニ帰奉ノ途ニ就キタリ

二、津浦線方面ニ於ケル直魯軍ノ退却部隊ハ列車少キ為大部分ハ陸路徒歩ニテ一部ハ運河ヲ民船ニテ天津郊外ニ向フモノト天津南部ヲ横切り軍糧城方面ニ向フモノトアリ馬廠、唐官屯ハ既ニ抛棄セルモノノ如ク退却後部ハ静海附近ニ在リ五日迄ニ天津河北ニ來着セルモノ約一万二千ニ達ス

三、直隸省当局行政官ノ主ナルモノハ既ニ職ヲ棄テ避難セルカ下級官吏モ出勤スルモノ少ク官庁事務ハ停止ノ姿ナリ大軍ノ蟬集セル為其ノ給与ニ困難ヲ來シ軍警ノ手ニ依リテ麵麩粉其ノ他食料品徴發ヲ強行シ雜穀並ニ現銀ノ移出ヲ禁止スル等ノコトアリ又最近徴収ヲ開始シタル營業許可証稅ヲ強行シツツアルモ支那街方面ニ於ケル富豪、大商人ハ既ニ租界ニ避難シ居ル為実收入少ク財政異常ニ緊張シツツアル模様ナリ

四、尚天津郊外村落ニ於テハ敗兵ノ小掠奪間々發生スルコ

トアルモ市中ニ於テハ租界ハ外国兵ノ警備完全ナルト支那街方面ハ張宗昌、褚玉璞ノ二將領駐在スル為軍警ノ警戒一層嚴重ニシテ狀況一般ニ平靜ナリ
北京、奉天、上海、青島、濟南へ転電セリ

279 昭和3年6月(7)日 在中國芳沢公使より
田中外務大臣宛(電報)

北京方面の政情について

北京 発
本省 6月7日後着

第八三一号

張大元帥ノ通電及潘総理ノ言明ニ依レハ奉天派ハ大元帥ノ退京ト同時ニ國務院モ亦移動シタルモノト解釈シ居タルモノノ如キカ其ノ後閣員全部離京シタル為北京ハ事實上ニ於テモ無政府状態トナリ治安維持会カ治安維持ト共ニ内外政務ニモ当リ居ル次第ハ往電第七九八号第七九三号及第七九二号ノ通ナル処山西軍ハ八日入京スル筈ナルカ故ニ同軍カ漸次治安維持ニ当リ政治問題ハ自然國民政府ノ決定ニ俟ツヘキコトトナルヘキカ馮玉祥ハ其ノ内山西軍ヲイビリ

(一)京津衛戍総司令ノ管轄区域限定(二)同区域内ノ革命軍ハ從テ同総司令ノ指揮命令ニ服ス(三)何レノ軍隊ヲ問ハス同区域内通過ハ総司令ノ許可ヲ要ス外ニケ条)ヲ承認シタルヲ以テ円満ニ纏マルヘシト思料ス尚目下右詳細ナル衛戍司令部規則制定中ナリ

本来馮軍ハ静海ニ止マル筈ナリシモ孫軍退却シタル為追撃シテ天津付近ニ赴ケル次第ニシテ決シテ山西軍ヲ出シ抜キタルニ非ス特ニ鹿鐘麟ハ久シク京畿衛戍司令タリ其ノ軍隊又最モ規律正シキニ付事端ヲ醸スコト無シト信ス自分ハ鹿鐘麟ヲ副司令トシ閻錫山ノ命ニ服サシムルヲ良策ト考へ居レリ何レニセヨ多年各地方ヲ漂歴セシ馮軍ノ事トテ都会ニ出ツル事ヲ切望スルモ無理ナラス不取敢蔣作賓ヲ北京ニ派シ此ノ上トモ兩軍ノ衝突ナキ様尽力セシムルヘク尚不充分ナル場合ハ自分出馬スルモ可ナリト考へ居レリ

一、自分及主ナル幹部ノ私案ナルカ将来直隸省ハ改称シテ別名ヲ付シ北京、天津何レカニ省政府ヲ設ケ他ノ一市ハ特別市トナスヘク非常ナル実害ナキ限リ首都ハ南京トナシ度ク考へ居レリ云々

出シ徐々ニ北京ヲ乗取ラムトスル魂胆ナルモノノ如ク既ニ其ノ部下韓復榘軍ハ南苑ニ在リ鹿鐘麟軍亦近キニ迫リ山西軍ヲ威圧シ居ル状態ニ在リ從テ当方面ノ政情ハ暫ク混沌ヲ続クヘキモ結局実力ヲ有スル馮玉祥軍カ漸次政治上ニモ勢力ヲ及ホスニ至ルヘキヤニ觀測セラル
奉天、天津、濟南、青島、上海、漢口ニ転電シ上海ヨリ南京ニ暗送セシム

280 昭和3年6月7日 在南京岡本領事より
田中外務大臣宛(電報)

京津区域における馮、閻兩軍の行動調整等に
関する李烈鈞の談話について

南京 6月7日後発
本省 6月8日前着

第一八六号
往電第一八二二号ニ関シ
七日李烈鈞ノ談左ノ通
一、馮玉祥軍天津方面進出ニ関シテハ閻錫山ヨリ再三電報アリ政治會議ニ於テ審議ノ結果不取敢閻ノ要求五ケ条

尚総司令部方面ニ於テモ次第ニ閻馮間ノ關係ニ付テハ相当憂慮シ居ルカ如ク何應欽ノ如キ馮玉祥ノ人物ハ不可解ナリト不安ノ面持ヲ示セリ
往電第一八三号ノ通転電セリ
上海ヨリ広東ニ御転電ヲ請フ

281 昭和3年6月(8)日 在天津加藤総領事より
田中外務大臣宛(電報)

孫傳芳天津離去の挨拶について

天津 発
本省 6月8日前着

第一四九号
孫傳芳ハ六月七日楊村ヨリ帰来シタリトテ何気ナク本官ヲ来訪シ在津代表ニ対スル從來ノ好意ヲ謝シ将来ノ好誼ヲ望ムトテ世間話ヲナシ赤禍ノ恐ル可キ事支那ニ於ケル其ノ害毒ハ支那国ノミノ禍ニ止マラス臆テ日本ニ及ヒ東亞ノ不幸ナル事支那ニ國民統治ノ適セサル事等ヲ述ヘ時局談ニ触ルルヲ避ケ即日当地出發先ツ軍糧城ニ赴キ次テ張作霖見舞ノ為奉天ニ向フヘシトテ辞去セリ

在支公使、奉天、上海、青島、濟南へ転電セリ

282 昭和3年6月(11)日 在中国芳沢公使より
田中外務大臣宛(電報)

北京治安維持会の解散について

北京 発

本省 6月11日後着

第八六二号

往電第八五一号ニ関シ

九日付治安維持会会長及副会長ノ名ヲ以テ大要今回国民政府ニ於テ閻錫山ヲ京津衛戍総司令ニ任命シ其ノ派遣ニ係ル參謀長朱綬光等著京シ接収事務ニ当リ又総指揮商震八日軍ヲ率ヒテ入京シ治安維持ノ責ニ任スルコトナリタルニ付本会ハ九日ヲ以テ解散ストノ書面ヲ送付シ来レリ
奉天、天津、南京、上海、漢口、広東ニ転電セリ

283 昭和3年6月(11)日 在中国芳沢公使より
田中外務大臣宛(電報)

閻錫山などの北京入城の状況について

機密第六九六号 (6月21日接受)

昭和三年六月十一日

在支那

特命全権公使 芳沢 謙吉(印)

外務大臣男爵 田中 義一殿

羅文幹、沈瑞麟ノ北京引揚内情ニ関スル件
張作霖引揚ノ際北京ニ居残リタル羅文幹、沈瑞麟ノ兩名ハ政局ノ推移ヲ見テ政治的策動ヲ為サムトスルモノナルヤニ伝ヘラレタルカ右ニ関シ六日沈觀鼎カ有野通訳官ニ為シタル内話左ノ通

羅、沈兩人ハ張作霖引揚後一時内閣ヲ維持セム積リニテ特ニ羅ハ王寵惠トノ関係ヲ利用シ南方側ト連絡ヲ付ケムトシタルニ適四日潘復天津ヨリ兩人宛ニテ國務院ハ一時移転シタルモノナルニ付北京ニ於ケル処理事項ニ付テモ従前通大元帥及國務總理ノ裁可ヲ經サルモノハ無効トストノ趣旨ヲ電報シ来リ他方之ト略前後シテ北京ニハ馮玉祥入城ニ決定セリトノ説伝ハリタル為先ツ沈ヨリ引揚ヲ提議シ羅之ニ同意シ其ノ結果俄ニ引揚クルコトナリタルモノニテ兩人ハ同夜発ノ張学良、楊宇霆ノ専用車ニ同乗シテ蒼皇トシテ天

北京 発
本省 6月11日後着

第八六三号

往電第八四〇号ニ関シ

十一日午後一時半閻錫山自動車ニテ入京シ各団体及学生団ノ歓迎ヲ受ケ直ニ旧陸軍部庁舎ニ入レリ蔣介石代表方本仁、李宗仁代表白崇禧、国民政府内務部次長趙丕廉及王鴻一(元山東省議会議長)等同行到着セリ尚先着ノ国民政府外交部參事潘連茹カ有野ニ語ル処ニ依レハ一行ノ自動車ハ総數六十餘輛ニシテ国民政府各部ノ參事又ハ司長及戰地委員其ノ他各機關ノ代表等分乘シ其ノ中間ト同時ニ到着シタルモノ六輛ニシテ其ノ他ハ明十二日迄ニ全部到着ノ予定ナリトノコトナリ
奉天、天津、濟南、青島、上海、南京、漢口、広東へ転電セリ

284 昭和3年6月11日 在中国芳沢公使より
田中外務大臣宛

羅文幹、沈瑞麟の天津への引揚げについて

津ニ引揚ケタリ

右何等御參考迄報告ス

285 昭和3年6月(12)日 在中国芳沢公使より
田中外務大臣宛(電報)

白河交通確保に関する馮玉祥への警告について

北京 発
本省 6月12日後着

第八六五号

本官発天津宛電報

第八九号

大臣宛貴電第一四八号前段ニ関シ

白河交通確保ニ関シテハ当方ニ於テモ考慮シ居ルモ只今外国公使ノ態度ヨリ判スレハ馮玉祥ニ対スル警告ニ付テ外交団ノ議ヲ纏ムルコト絶望ナルヘキカ故ニ若シ警告ヲ発ストセハ我方単独ニ五月十八日ノ覚書ノ趣旨ヲ繰返シ再ヒ注意ヲ喚起スル外ナキカ仮令此ノ際我方若ハ外交団ヨリ申込マルルモ天津付近ノ財源ト開港トヲ手ニ入レムト焦慮シ居ル

馮玉祥ノ反省ヲ促スコト困難ナルヘキニ付形勢ノ変化ニ伴ヒ何レ時機ヲ見テ善処スル外ナカルヘキヤニ思考ス
外務大臣ヘ転電セリ

286 昭和3年6月13日 在中国芳沢公使より
田中外務大臣宛(電報)

北京の治安維持特に外国人保護に注意すべき
旨の閻錫山の言明について

北京 発
本省 6月13日後着

第八七一号
往電第八六三号ニ関シ

十三日閻錫山著任挨拶ノ為本使ヲ来訪シ北京ノ治安維持ノ責ニ任シ特ニ外国人ノ保護ニ注意スヘキ旨言明セリ
尚閻ハ本使ノ質問ニ対シ同人ノ任務ハ治安維持及軍事事項ノ処理ノ二点ナルカ政治問題ニ付テハ既ニ国民政府ニ於テ弁法決定シタル由ニ付兩三日中ニ発表セラルヘント答ヘタリ
奉天、天津、上海、南京、漢口、広東ヘ転電セリ

287 昭和3年6月18日 在中国芳沢公使より
田中外務大臣宛(電報)

閻錫山が外交団に対し軍警費十五万元関税剩
余金より支出方要求について

北京 発
本省 6月18日後着

第九〇五号
往電第八九〇号ニ関シ

十八日日、米、仏、伊各代表者、首席公使ト会合ノ際首席公使ハ閻錫山ヨリ更ニ軍警費トシテ十五万元関余ヨリ支出方要求シ来リ「エドワーズ」ハ予定シ居ル事トテ之ニ異議無キモ閻カ外交団及「エ」ニ対スル右要求ヲ国民政府ノ名ニ於テセシムル方「エ」ノ地位ヲ鞏固ナラシメ有利ナルヘシト述ヘタルニ英国公使ハ之ニ賛成シ其ノ理由トシテ目下南方勢力ノ進展ト共ニ郵政及塩務ハ既ニ動揺シ更ニ税関ニモ波及セン事ヲ虞レ居ルカ国民政府ノ名ニ於テ「エ」ニ支払ヲ要求スル事ハ同政府ヲシテ間接ニ「エ」ノ地位ヲ認めシムル事トナリ総稅務司ノ地位保全上良好ナル結果ヲ得ヘ

御参考迄左ノ通報告ス

記

一、警戒状況

市内ノ警戒ハ治安維持会成立当時ヨリ引続キ極メテ嚴重ニ行ハレ各要所ニ軍隊及巡警ヲ配置スル外二三十名ヲ一団トセル武装軍隊ヲシテ巡邏セシメ殊ニ夜間ハ自動車、人力車ニ至ル迄誰何シ又城門ハ朝陽、西直、永定ノ三門以外ノ各城門ヲ全然閉鎖シ右三門ニ於テモ一日數回ニ亘リ一兩時間開放スルノミニテ且入城者ニ対シテハ特ニ嚴重検査セリ
右ノ如ク警戒嚴重ナリシ為市面一般ニ平穩ナリシモ謠言盛ニ伝ヘラレ人心不安ニ襲ハレ一般ニ寂寥ヲ極メタルカ其ノ後山西軍ノ配備成ルト共ニ漸次緩和セラレ十二日ヨリハ戒嚴状態ヲ解除セラレ各城門モ十日頃ヨリ相前後シテ平常通開放セラレタリ

一、学生運動

南軍入城ト共ニ学生運動ノ擡頭ヲ予期セラレタルカ前項ノ如ク当局ノ警戒嚴重ナリシノミナラス京師警備司令部成立ト同時ニ伝單標語ノ散布ヲ禁止(往電第八三六号參

機密第七二八号 (6月28日接受)

昭和三年六月十九日

在支那

特命全權公使 芳沢 謙吉(印)

外務大臣男爵 田中 義一殿

山西軍入城後ノ一般状況報告ノ件

六月八日山西軍入城以後ニ於ケル北京ノ警備其他一般状況

290 昭和3年7月(5)日

在天津加藤総領事より
田中外務大臣宛

照)セル為未タ表面的ニ活動スルニ至ラス殊ニ南軍入城ノ際モ將又閻錫山入京ノ際ニ於テモ歡迎遊行ハ勿論予テ準備セシ伝單モ散布スル能ハサリシ趣ナリ尤モ京師大學師範部ニ於テハ門柱、墻壁等ニ「反帝國主義的圧迫」「歡迎革命軍」等ノ文字ヲ記セル標語貼付セラレ又西城方面ニ於テ電柱等ニ「革命軍的成功」「實現三民主義」「以党治国」等ノ文字ヲ記セル標語ヲ貼付シ居レリ

一、国民党北京特別市党部ノ活動

本月六日湖南會館ニ於テ事務ヲ開始セル同部ハ八日各支那新聞紙上ニ時局ニ対スル宣言(本月十三日付公第七〇五号拙信参照)ナルモノヲ發表シ山西軍入城ニ際シ「歡迎革命軍」及「打倒共產黨」ト題セルモノ其他ノ伝單ヲ散布セルモ是又前頭伝單標語禁止布告ノ為準備シアル伝單等モ散布スル能ハサル有様ニテ未タ差シタル活動ヲ見ルニ至ラス

一、山西軍ノ氣受

山西軍入城當時ノ服裝ハ甚タ不整備ニシテ且汚損セルモノ多ク帽子ナキモノアリ鳥打ヲ戴ケルモノアリ乱雑醜惡見ルニ堪ヘサルモノアリシカ同軍ノ紀律ニ付テハ相当注

来各県知事及京奉京綏鐵路局長電報局長稅務監督、教育局長其ノ他地方的各機關ニ対シ着々自派ノ人物ヲ任命シ又最近ニ至リ事務統一ノ理由ヲ以テ衛戍司令部内ノ外交署ヲ廢止セシム等頗ル活躍シ居ルニ対シ閻側ハ中央政府トノ連絡ニ欠クル処アル為カ其ノ行動機敏ナラス推薦人物ノ如キキ期ノ如ク職ニ就クヲ得サル為部下ノ不平ヲ唱フル者鮮カラサル模様ニテ先般來閻カ休暇ヲ繼續シ北海靜心齋ニ引籠リ居ルハ此ノ種ノ不平モ一因ヲナシ居ルモノノ如シ

尚往電第九四七号何成濬ノ北京市長任命ハ閻ノ主張ニ依リ蔣作賓ヲ説キ辛ウシテ発令シタルモノナル由ナルカ右決定後閻モナク突如中央ヨリ何其鞏(馮玉祥ノ秘書長ニシテ同人ノ推薦シタルモノナル由)ノ市長任命發表セラレタル為閻ハ大ニ面目ヲ失シ已ムナク何成濬ヲ代理市長ノ名義ニテ就任セシメタルモノナル由ナリ

上海、漢口、奉天ヘ転電シ天津ヘ暗送セリ

上海ヨリ南京ヘ暗送セシム

意セラレタルモノカ市民及商舖ニ対スル態度モ穩健ニシテ一般ノ氣受概シテ良好ナリ

本信写送付先 天津、奉天

289 昭和3年6月(29)日

在中国芳沢公使より
田中外務大臣宛(電報)

閻衛戍總司令の施政振りなどに関する中国側内部の批評について

北京 発
本省 6月29日後着

第九六八号

閻錫山衛戍總司令就任以来ノ施政振等ニ対スル各側ノ評判ハ大体無難ナル処支那側内部ニテハ閻ノ遣口ハ余リニ因循ニシテ改革気分ニ乏シトテ非難スルモノ鮮カラス殊ニ市党部方面及白崇禧一派ハ閻ノ穩健主義ニ嫌ラス特ニ伝單及宣伝文書等ノ一般的配布禁止其ノ他ノ取締振ニ対シ反感ヲ抱キ最近反抗的態度カ漸次表面ニ現ハレ來ル氣配アリ

一方各機關ノ用人問題ニ付テハ閻ト戰地政務委員會蔣作賓トノ間ニ相当紛糾アリ蔣側ハ行政方面ノ権限ヲ楯トシ先般

河北省政府成立について

公信第四一〇号

(7月16日接受)

昭和三年七月五日

在天津

総領事 加藤 外松(印)

外務大臣男爵 田中 義一殿

河北省政府成立報告ノ件

昨四日午後二時ヨリ当地河北旧督弁公署ニ於テ河北省政府成立式挙行セラレ省政府主席商震及韓復榘、李鴻文、丁春膏三名ヲ除ク委員全部、中央党部代表周震麟、省党部代表王宣、市党部代表彭志瑜、特別市長南桂馨、警備司令傅作義、警察厅长孫嘉祜、天津県知事水鈞韶、十五軍副軍長李生達、師長陳長捷、何紹南、總商會代表王君直、銀行公會代表卞白眉其他各機關代表約百余名之ニ列席シ省政府委員ノ宣誓文朗読、中央党部代表ノ訓詞、省党部及市党部代表ノ演説ニ次イテ商震ハ全体委員ヲ代表シ只今諸氏ヨリ懇篤ナル訓示ヲ受ケ委員一同感謝ニ堪ヘス今後諸氏ノ訓示ヲ体シテ努力スヘク尚諸氏ノ助力ヲ懇望ス韓委員ハ軍務多忙ノタメ李委員ハ財政會議出席中ノタメ丁委員ハ馮總司令迎

293 昭和3年7月9日

在中国芳沢公使より
田中外務大臣宛(電報)

第一〇一〇号
国民党北京市党部主催ノ北伐奉祝大会(北京總商會各組合及諸工人會ノ四十団体ノ外ニ學生ヲ加ヘ約二万)ハ七月七日午前十一時三十五分当地天安門前ニ於テ開催先ツ国旗、党旗及總理遺像ヘノ礼拝、遺囑奉誦及革命歌合唱等アリタル後來賓ノ演説ニ移リ邵力子、吳稚暉、李宗仁、閻錫山、商震、方振武、鹿鐘麟等三民主義國民革命及打倒帝國主義ニ付演説シ何レモ反共産ヲ力説シタル外過激ナル言辞ヲ弄スルモノ無ク嚴重ナル警戒ノ下ニ秩序整然午後一時三十五分閉會セリ尚右會合ニハ學生ノ少数ナリシハ曾テ見サル現象ニテ又撤布セラレタル伝單中日本ニ關係アルハ濟南事件ニ関シ北京学生会、外交後援會及北京市弔祭団、外交後援會等カ宣言シタル模様アルヤニ過キス
上海、南京ニ転電セリ

外務大臣ヘ転電アリタシ
第二九号
本六日午前十時ヨリ旧西北督弁公署ニ於テ察哈爾区国民党ノ旗挙式ヲ舉行シタ來會民衆二千余内學生工人約一千先ツ旗挙式ノ国歌合唱、總理ノ遺囑朗誦、党務指導員就職宣言、演説終リテ群衆ハ市内ヲ通行シ北端都統署ノ練兵場ニ到リ革命成功万歳ヲ唱ヘテ散會シタ
伝單手旗ニハ例ノ如ク打倒帝國主義、肅正残余軍閥、肅正共産党排除、不平等條約、三民主義實行等ニテ特ニ排日ヲ標榜シタルモノ無ク極メテ静肅ニ行ハレタ
之ヨリ先支那側ヨリ旗挙式及市中游行ノ通知アリタルニ依リ本官ハ無頼ノ徒取締方ヲ要求シ外国人保護ノ責任ヲ尽スヘキ事ヲ警告シ置キタルニ支那側モ之ヲ快諾シ大ニ尽力セシ形跡アリ

292 昭和3年7月(8)日
在中国芳沢公使より
田中外務大臣宛(電報)

国民党北京市党部主催の北伐奉祝大会の様
について

第一〇一八号
往電第九九一号ニ関シ
所謂軍事會議ハ馮玉祥ノ入京ニ依リ六日以来連日西山ニ於テ開カレ八日迄ニ一通リ大綱ノ打合ヲ了シタル模様ナルカ右會議ハ蔣、馮、閻、李四巨頭ノミニテ行ハレ蔣ノ側近者モ参加セシメス且協議ノ内容ヲ一切秘密ニ付シ居ル為充分探知シ得サル処各要人ノ断片的談話其ノ他各方面ノ情報ヲ綜合スルニ會議事項ハ軍事善後問題特ニ裁兵問題ヲ中心トシ今後各軍ニ於テ夫々裁兵ノ實行準備ニ着手スルコト之ニ要スル費用及將來ノ一般軍費問題ハ具体案ヲ作成シ第五次全体會議ニ提議スルコトシ又東三省問題ニ付テモ相当詳細ニ討論セラレ從來ノ通和戦両様ノ方針ヲ持シ奉天側ノ態度如何ヲ見テ対応スルコトニ決シタルモノノ如ク又近ク李濟深ノ來着ヲ俟テ更ニ最後ノ會議ヲ為スヘシトモ伝ヘラレ居レリ

ノタメ出席シ得サリシハ遺憾ナリ後日更ニ同委員等ノ宣誓ヲ行フヘキ旨ヲ述ヘ委員就職通電アリテ式ヲ閉チタル趣ナリ
尚式後商震ハ新聞記者ニ今回ノ成立ヲ見タルハ閻、蔣ノ督促ニ依ルモノニシテ省政府カ正式ニ保定ニ於テ組織ヲ見ルニ至ル迄天津ニ秘書処ヲ設クヘキ旨語リタル由ナリ
右報告ス
本信写送付先 在支公使、在奉天、上海、青島、濟南各総領事

291 昭和3年7月(7)日

在中国芳沢公使より
田中外務大臣宛(電報)

察哈爾区国民党の旗挙式と民衆の市内示威行
進について張家口領事館報告

北京 発
本省 7月7日後着

第一〇〇一号
張家口発本使宛電報
第二四号

北京 発
本省 7月8日前着

北京 発
本省 7月9日後着

蔣、馮、閻、李四巨頭の西山に於ける軍事會議開会について

北京 7月9日後着
本省 7月9日後着

尚本九日馮ノ主權ニテ先年南口ニ於テ戦死セルモノノ追悼
会ヲ同地ニテ催ス由ニテ之ニ参列ノ為蔣、馮、閻、李四人
共七月九日朝南口ニ赴ケリ
奉天、上海、漢口、広東へ転電シ天津へ暗送セリ
上海ヨリ南京ニ暗送セシム

294 昭和3年7月10日 在吉林川越総領事より
田中外務大臣宛(電報)

熙參謀長の国民政府との妥協問題等に関する
談話について

吉林 (長春中継)
本省 7月10日後着

第二五号

熙參謀長本月一日奉天ニ赴キ二、三日前帰来セルニ付昨九
日栗本ヲシテ往訪セシメタル処其ノ談話要領左ノ通

(一)軍民分治問題ハ一般人民及一部政治家之ヲ希望シ居ルモ
未タ決定シタル訳ニハ非ス自分ノ見ル所ニテハ東三省ノ
現状ニ於テハ軍民分治トスルモ督弁兼省長ノ独裁政治ト
スルモ其ノ実質ニ於テ何等異ナル所ナシト思考ス

第四一六号

十三日呂榮寰ノ河野ニ語ル処ニ依レハ自分ハ来ル十六日当
地発南京ニ赴ク予定ナリシ処張学良ト打合セノ結果茲数日
間北京巨頭會議並奉天四代表ト国民政府間折衝状況ヲ見極
ムル為出發ヲ延期セル趣ナリ又河野カ袁金鎧ヨリ得タル情
報ニ依レハ東三省連合保安会ノ組織大綱ニ付文武関係者ハ
十二日夜協議ノ結果

- 一、会名ヲ東北地方保安連合会トス
- 二、同会ヲ奉天ニ置ク
- 三、会員ヲ十七名トス
- 四、東三省連合省議會ヲ以テ東北地方保安連合会ノ監督機
関トス

- 五、合議制トシ東北地方重要事項ヲ議ス
- 六、会員中ヨリ会長ヲ推薦ス
- 七、現行法令ニシテ本会ノ大綱ニ抵触セサルモノハ有効ト
ス

八、本会細目ハ別ニ之ヲ定ム
等計十ヶ条(機密公第五一二号ト大差無シ)ヲ議定セルニ
付不日公布アルヘク本会組織ノ趣旨ハ國務院類似ノ機関ヲ

(二)目下東三省連合省議會ニ於テ目論マレツツアル東三省保
安会ハ国民政府ニ対スル意味モ含マレ居リ三省ノ督弁及
商会並ニ各省ヨリ推挙セル省民代表二、三名ヲ以テ組織
セントスル案ナリ

(三)対国民政府關係ニ付テハ今後再開戦ハ絶対ニ無之カルヘ
ク妥協問題ハ目下委員ヲ派シ商議中ナリ其ノ内成立ヲ見
ルニ至ルヘシト信ス妥協条件中青天白日旗掲揚ハ大シタ
問題ニ非ス三民主義モ亦忍ヒ難キモノニ非ス東三省委員
長ヲ国民政府ニ於テ任命スルモ東三省ニテ推薦セルモノ
ヲ形式上国民政府ニ於テ任命スル事ニ依テ兩者間ノ合意
成立シタルカ如シ

在支公使、奉天ニ転電シ哈爾濱、長春ニ暗送セリ

295 昭和3年7月13日 在奉天林総領事より
田中外務大臣宛(電報)

東三省連合保安会の組織大綱に関する文武関
係者の協議について

奉天 発
本省 7月13日後着

設クルニアリ尚三省憲法トモ見ルヘキ三省公約(保安会及
省議連合会ノ権限規定)ハ目下主トシテ省長側ニ於テ詮考
中ニ付数日中ニハ決定公布ヲ見ルニ至ルヘシト
北京ニ転電セリ

296 昭和3年7月17日 在奉天林総領事より
田中外務大臣宛(電報)

張学良の関内奉天軍撤退に関する談話につい
て

奉天 発
本省 7月17日後着

第四二四号

七月十六日会談ノ砌張学良ハ関内ニ在ル奉天軍ハ北戴河防
禦線モ略々完成セルヲ以テ第二期撤退区域ヨリ第三期区域
ニ撤退シツツアリ而シテ其ノ南ニ在リシ山東軍ハ奉天軍ノ
引揚ニ連レテ北上シ既ニ灤河ヲ渡リ始メタルカ山東軍ノ後
始末ニハ困リ居ル旨ヲ語レリ
北京、天津ニ転電セリ

297 昭和3年7月17日 在中国芳沢公使より
田中外務大臣宛

北伐軍入城後の北京市況について

公第八三五号 (7月25日接受)

昭和三年七月十七日

在支那

特命全權公使 芳沢 謙吉 (印)

外務大臣男爵 田中 義一殿

北京最近市況ニ関スル件

北京最近ノ市況ニ関シ別紙ノ通報告ス

(別紙)

市況報告

一、国民軍対市民 国民革命軍入京以来既ニ一ヶ月余ニ至リタルカ奉天軍在京当時ニ比シ市民対兵士ノ感情頗ル良好ニシテ未タ何等ノ衝突事故ヲモ惹起セス人力車、電車等ニ乗車セル場合モ必ス車賃ヲ支払ヒ其ノ態度温良ナリ又前門外花柳界等ニ於テモ妓女及亭主等ニ対スル態度穩カニシテ且ツ出入スルモノ亦奉軍ニ比シ少ク同方面ニテ

ス加之交通ハ未タ完全ニ復旧セス就中機關車、貨車不足ノ為貨物ノ運輸意ノ如クナラス顧客アルモ商品不足ヲ感シ居リ五月節後ノ取引ハ全然休止ノ状態ナリ
一、金融概況 商況不振ト政変トニ依リ各銀行ハ貸出ヲ差控ヘ回収整理ニノミ意ヲ注キ各軍入京後ハ軍費捻出交渉ヲ警戒シ居レリ
山西票、中央銀行票ノ流通ハ未タ良好ナラス金融ハ頓ニ逼迫ノ状況ナリ山西票ノ兌換ハ銀九十七仙、中央銀行票ハ銀八十仙余ニ割引セラレ郵便局、稅務署ノ納稅ニハ受入レ居レルモ警察關係ノ納稅ニハ受入ヲ為サス

298 昭和3年7月21日 在中国芳沢公使より
田中外務大臣宛

北京の北平改称に伴う各機関および街巷等の名称更改について

公第八五五号 (8月2日接受)

昭和三年七月二十一日

在支那

特命全權公使 芳沢 謙吉 (印)

好評ナリ又將校幹部連カ料理店ニテ宴会ヲ催ス場合モ極メテ質素ナリト云フ
紳商富豪等ハ国民党党旨ノ宣伝ニテ士豪劣紳ヲ処分スル云々ヲ伝ヘテ窃カニ恐怖ヲ感シ居リ国民軍ハ口々三民主義ヲ唱フルモ心裡ハ之ニ反シテ頗ル危険ナリト批評シ居レリ又各種ノ工会成立シ生活上危険ヲ感スルモノ多ク旧官制ヲ打破セラレ未タ何等緒ニ着カス一種不安ノ念ヲ抱キツツアル状況ナリ
一、治安状況 国民軍ハ奉軍ニ比シ規律アリ奉軍時代ハ毎夜ノ如ク兵士ノ強盗出沒シタルモ奉軍退却後ハ強盗事件稀トナリタリ然レ共共產系不良分子ハ機会アル毎ニ擡頭セムトスルノ噂アリ前門外辺ノ貴金屬店多キ各胡同入口ハ午後十時頃ヨリ門柵ヲ閉鎖シ警戒シ居レリ官憲ノ警備状況ハ稍緩ナル如ク見受ケラル警察制度ノ急激ナル変改等ハ市民ニ多大ノ不安ヲ与ヘツツアル状態ナルモ警察側ノ消息ニ依レハ暫時改正セサルヘシト云フ
一、商況 一般商況不振ノ折柄五月節ニ際シ政変アリ官吏政客ヲ顧客トスル当市ノ如キ小売商店ハ全市ニ亘リ多大ノ打撃ヲ被ムルニ至リ五月節決算モ未タ決済スルニ至ラ

外務大臣男爵 田中 義一殿

各機関街巷等ノ名称更改ニ関スル件

北京ヲ北平ト改称セルニ伴ヒ北京、京師、京兆等ノ文字ヲ冠セル公私各団体機関モ当然其ノ名称ノ更改ヲ要スヘキ処最近公安局ハ管下ノ各警察署ニ対シ右様名称ヲ有スル各団体機関ノ改称取計方ニ付訓令セル趣ニテ公私立各中小学校ニ於テハ既ニ本月十三日ヨリ京師ナル文字ヲ北平ト改メ又中央公園ハ本月初旬中山公園ト改メタルカ其ノ他中央觀象台、中央醫院、中央防疫処、京師図書館、京兆銀錢局等ノ各機関モ近々改称セラルヘシトノコトナリ更ニ公安局ハ市党部指導委員會ノ申請ニ基クヤニテ当地方ニ於ケル街巷地名等ニテ王府井大街、内宮監、司礼監、高殿、帝王廟、宗人府等帝制時代ノ称呼ヲ改更スルコトトシ且之カ查報方ヲ管下警察署ニ訓令シタル趣ナルカ他方市政府ニ於テハ帝制時代ノ旧習ヲ打破スル意味ニテ従来ノ各種儀禮等ノ廃止ヲ訓令セリ

尚京漢鐵路局ニ於テハ本月十六日交通部ノ訓令ニ基キ平漢鐵路局ト改称スル旨管下各機関ニ通達セル趣ナリ

299 昭和3年7月26日

在中国芳沢公使より
田中外務大臣宛(電報)

馮玉祥奉国戦殉死者追悼大会参加を名目に約
二万の軍隊を南口に移駐について

北京 7月26日後発
本省 7月26日後着

第一一一号

馮玉祥ハ七月九日南口ニ於ケル奉国戦殉死者追悼大会ヲ盛大ニ開催シ其ノ際之ニ参加ノ名義ニテ約二万ノ軍隊ヲ同地ニ送リタルカ其ノ後之ヲ他ニ移駐ノ模様ナキ為同地ニ在リタル山西軍ハ同軍トノ衝突ヲ怖レ他ニ移駐セリトノ風説ニ関シ当館警察署員ノ公安局員ニ確メタル処ニ依レハ右ハ事実ニシテ右追悼会ハ表面ノ看板ニ過キス其ノ目的ハ軍隊ノ移駐ニ在リタルモノニテ馮ノ此ノ遣口ニ対シテハ蔣介石、閻錫山亦極メテ重要視シ蔣ハ同方面ニ視察隊ヲ派遣シタリトノコトナリ時節柄御参考迄
在支各総領事(閻島、成都ヲ除ク) 張家口ニ転電シ上海ヨリ南京ニ暗送セシム
天津ニハ暗送セリ

(一) 行動ヲモ為サス且市面ハ我方駐兵ノ為秩序充分ニ維持セラレ国民党青島市党部及中国共産党青島市党部等指導機關ヲシキモノ存スルモ何レモ微力ノ上屏息シ居レルヲ以テ效暫クハ排日の民衆運動勃発ノ虞ナカルヘシ
二、膠済鐵路局内ノ空氣ハ何レモ我軍ノ警備ニ信頼シ安心シテ従業シツツアリテ勤務状態良好從來兎角浮腰ナリシ趙局長以下北方系各幹部モ近來漸ク落付キヲ見セ正当後継者出ツル迄居据ハル心組ト認メラル港政局ノ空氣モ亦略々同様ナリ
三、膠済鐵路沿線我警備地域外ニ於ケル支那軍隊並土匪ノ分布ヲ見ルニ

(イ) 曩ニ直魯軍ヨリ南軍ニ寝返リタル劉荊山ハ昌邑ニ司令部ヲ固堤ニ司令部ヲ設ケテ其ノ附近ノ一帯ニ勢力ヲ張レリ部下約七千、迫撃砲三十余其ノ他精銳ナル武器ヲ有ス最近再ヒ北軍ニ逆戻リ方永昌ト氣脈ヲ通シ居レル模様ナリ

(ロ) 高密ノ奥地大周陽ニ王子成ヲ首魁トスル土匪軍約四千アリ大珠山、シヨウサン 一帯ノ大刀会ト氣脈ヲ通シ地方ノ一勢力ヲナセルモノノ如シ

300 昭和3年7月30日

在青島河相総領事代理より
田中外務大臣宛(電報)

膠東の政情について

青島 7月30日後発
本省 7月30日後着

第五〇〇号

(1) 曩ニ張宗昌失脚シ其ノ統制力弛緩シタル為爾後部下ノ軍長等ハ各独立的地位ヲ形成シ膠東ノ地ニ於テ其ノ根拠ヲ定メ互ニ攻伐ヲ事トシ居レルカ這ハ他日機会到来ノ際青島並ニ膠済鐵路ノ主人トシテ其ノ滋味ヲ独占セン下心アルカ為ト察セラル且斯クノ如キ情勢ノ内ニ蜂起セル多數土匪軍ノ跳梁スルアリ殊ニ最近膠東一帯討伐ノ為ト称シ方振武、陳調元等ノ南軍東進ノ報伝ヘラルルアリテ今後相当ノ擾乱ヲ免レ難カルヘキモ関内現下ノ政情概ネ左ノ通
一、膠澳商埠地ハ趙総弁五色旗ヲ掲ケ其ノ儘居据ハリ居レルカ元來彼ハ首鼠兩端ヲ持シ万事事勿レ主義ヲ奉シ居レル者ナルヲ以テ当面ノ問題タル特別市制問題ノ如キ彼ノ積極的画策ヲ期待シ得サルト共ニ我方ニ取り不利益ナル

(イ) 劉志陸軍ハ景芝鎮(高密安邱ノ中間)一帯ニ集結シ謝文炳軍ト行動ヲ共ニセリ其ノ數約四千ニシテ尚募兵ト称シ土匪ヲ集メ居レル模様ナリ
(ロ) 曩ニ高密付近ニ於テ我軍ト衝突セル顧震軍ハ膠州ノ南方王台ニ司令部ヲ置キ部下約二万ト称セラレ高密以東ニ勢力ヲ有セリ

(ハ) 北軍敗退後最後迄節ヲ守リ最近劉志陸軍ヲ破リテ大ニ氣勢ヲ上ケタル方永昌軍ハ掖県平度方面ニ勢力ヲ有シ今般芝罘ニ於テ「クーデター」ヲ行ヘル鍾震国及劉荊山ト連絡シテ漸次膠東ニ勢力ヲ扶植シツツアリ
右ノ如ク膠東一帯ハ宛然無警察状態ニ陥リ軍費ノ搾取ニ堪エ兼ネ富者ハ珍藏スル珍器等ヲ売却シテ是ニ応シ貧者ハ流民トシテ滿州方面ニ多数移住シ居レルカ如キ慘状ヲ呈シ居レリ
北京、濟南、上海、南京、芝罘へ転電シ坊子、張店、博山へ暗送セリ

301 昭和3年8月23日

在中国芳沢公使より
田中外務大臣宛(電報)

平津衛戍總司令部の各種工会解散命令に對する
北京市国民党部の反對宣言書發表について

北京 發
本省 8月23日後着

第一二三九号

平津衛戍總司令部ハ先般來市政府其ノ他關係軍憲ト打合セ
ノ上八月十五日付ヲ以テ北京及天津ニ於ケル各種工会ノ解
散命令ヲ發表シタルニ對シ北京市党部ニテハ右命令ヲ不当
トナシ反對ノ氣勢ヲ示シツツアリシカ二十一日ニ至リ同党
部ハ長文ノ宣言書ヲ發表シ之ヲ翌日ノ各新聞紙ニ掲載セシ
メタリ右ニ依レハ(一)此ノ種民衆団体ハ中央ノ命令ニ基キ中
央特派員ノ監督ノ下ニ指揮シタルモノナル事(二)国民党ノ党
議黨綱ニ基キ工作シ從來何等危害ノ行動ナカリシ事(三)共產
党ノ嫌疑ヲ以テ強ヒントスルハ党部ヲ侮辱シ中央ノ任命ヲ
蔑視スルモノナル事等ノ理由ヲ掲ケ最後ニ中央ノ命ニ依ル
ノ何人ト雖本部所屬ノ民衆団体解散ノ權限ナシトテ明カ
ニ命令ニ對スル反抗ノ態度ヲ表明シ居レリ或ハ本件ニ依リ
將來市党部ト總司令部トノ間ニ一大紛糾ヲ來スニ非サヤト
モ認メラル

始スヘシトノ事ニテ尚白ハ直魯軍ハ總數五、六万ト称スル
モ武器ヲ有スルモノハ約三万ニ過キスシテ目下灤州以西ニ
集中シ居リ又灤州以東ニハ奉天軍駐屯シ居レルカ右ニ對シ
革命軍ハ總數十数万其ノ前線ハ蘆台方面ニ及ヒ直魯軍トノ
距離僅ニ七、八支里ヲ距テテ展開シ居ルニ付一度總攻撃令
ヲ出スニ於テハ容易ニ同軍ヲ解決シ得ル見込ナリト語レリ
右白ノ來訪ハ同人前線出動ニ関連シ京奉沿線ニ於ケル外国
在留民ノ保護聲明ニ関スル挨拶ノ為來リタルモノニシテ同
日各国公使ヲ訪レ帰奉セリ
奉天、牛莊、天津、芝罘、濟南、青島、上海、南京、漢
口、広東ニ転電セリ

303 昭和3年9月27日

在天津加藤總領事より
田中外務大臣宛

天津方面状況に関する曾公安局長の談話につ
いて

機密第六〇九号

(10月8日接受)

昭和三年九月二十七日

在天津

天津、上海、南京へ転電セリ

302 昭和3年9月(1)日

在中国芳沢公使より
田中外務大臣宛(電報)

白崇禧閩内残留奉天軍、直魯軍に對する總攻
撃準備について

北京 發
本省 9月1日後着

第一二六八号

往電第一二六七号ニ関シ

当地革命軍ニテハ其ノ後奉天側ノ態度依然煮切ラス殊ニ張
宗昌軍ハ張學良ノ改編及解散革命^(マツ)ニ応セス尚頻リニ活動シ
居レリトノ報道ニ鑑ミ此ノ際断然軍事行動ヲ開始スヘキ由
現ニ伝ヘラレ居リタルカ九月一日白崇禧カ本使ヲ來訪ノ際
語ル処ニ依レハ張學良ヨリ奉天側ニ於テ閩内ノ直魯軍ヲ自
動的ニ撤退シ処分スヘキ旨申出テ來リタルモ果シテ実行ス
ルヤ否ヤハ疑問ナルニ付同人明二日当地発前線ニ赴キ直接
直魯軍ノ態度ヲ見定ムル事トシ若シ同軍力撤退ヲ実行スレ
ハヨシ然ラサルニ於テハ直ニ同軍ニ命令シテ軍事行動ヲ開

外務大臣男爵 田中 義一殿 總領事 加藤 外松(印)

公安局長曾廷毅時局談報告ノ件

当地公安局長曾廷毅ハ山西軍砲兵第四旅々長ノ本職ニ在リ
警備司令傳作義トハ義兄弟ノ間柄ニテ共ニ涿州籠城ノ勇士
ナルカ昨今当地ニ於テ当地警備司令ハ白崇禧之ニ膺リ傳ハ
張家口ニ移サルヘク山西ノ勢力漸次当地方ヨリ驅逐セラル
ヘシトノ噂アルニ際シ右確メノ為メ九月二十六日白井ヲシ
テ曾公安局長ニ面会セシメタルニ左ノ通談話シタル趣ナリ
一、閩總司令北京ニ到着セル為傳作義ハ兩三日前北京ニ赴
キタルカ傳更迭ノ件ハ何等聴込ミ居ラス定メシ謠言ナル
ヘシト思ハルカ傳ニ對シ党部方面ニテ非難ノ声アル為
同人ハ此際現職ヲ辞シ欧米日本等ヲ漫遊シ度キ希望ヲ有
シ屢々辭職ヲ申出テタルモ当地方治安維持上尚彼ニ待ツ
所多キヲ以テ其辭職ヲ許サレサル次第ナリ

一、白崇禧ト閩錫山トノ關係ハ至極良好ナレハ白カ地盤争
ノ為山西側ト事端ヲ醸ス様ノコト絶対無カルヘシ灤州方
面ノ問題解決ノ上ハ白ハ(一)漢口方面ニ引上クルカ(二)津浦
線方面ニ駐屯スルコトトナルヘシト推測セラル白ハ國際

の方面ニ多大ノ注意ヲ払ヒ居レハ同人ヲシテ山東方面ニ
向ハシムルコト最モ適任ナルヘシ

一、河北省政府ハ愈々近日中ニ北京ニ移転スルコトトナリ
主席商震始メ省政府委員及各機關ハ凡テ北京ニ移リ当地
ハ完全ニ特別市政府管理ニ帰シ省政府ト省政府トノ間ノ
権限争等ヲ免ルルコトトナレリ省政府北京移転ノ上ハ北
京特別市政府ハ取消スコト至当ナルヘシ(此ノ口調ヨリ
シテ河北省政府北京移転ノ上ハ山西派ノ多キ省政府カ馮
玉祥系ノ北京特別市政府ヲ排除スルニ至ルヘキコトト推
測セラル)

一、灤州方面ニ於ケル直魯軍ハ既ニ解決セラレ馮玉祥ハ甘
肅方面ノ反馮運動鎮圧ニ忙殺セラレ居ル際ナレハ予テ
種々取沙汰セラレタル京津地方治安問題モ此処数ヶ月ハ
先ツ何等ノ變動ナキコトトナレリ馮カ其兵力ヲ整理シ実
力ヲ整備シ得ルニハ少クトモ今後四五ヶ月ヲ要スヘク從
テ馮ニ如何ナル野心アリトスルモ明春迄ハ当地方ニ進出
シ得サル次第ナリ

一、当地治安維持ニ関シ近来最モ注視スヘキハ共產党ノ活
動ナルカ当地方ニ陳独秀始メ共產黨員多数入り込ミタリ

北平における閻錫山の勢力状況について

11月27日午後5時35分発
11月28日午前3時37分着

支第五五五

諸情報ヲ綜合スルニ閻錫山ノ京津衛戍総司令トシテノ重責
ハ彼カ六月入京以来内外人共ニ之ヲ危ミ居タル処ナルカ約
五個月居リタル今日迄何等其業績ノ見ル可キモノ無ク唯僅
ニ其位置ヲ保持シアルノミ当初閻ノ総司令トシテ着任スル
ヤ愚直ニモ京津地方ノ財政権ヲ政府ノ命令ノ儘悉ク之ヲ中
央ニ奉還シ大ニ率先忠誠振ヲ示シタルモ其後中央政府ハ確
実ニ諸経費ヲ送付シ来ラス為ニ目下衛戍司令部ニ於テハ職
員ノ俸給ハ約三箇月間不渡トナリアリ加之京津衛戍管轄内
ニハ白崇禧、劉鎮華、徐源泉、鄭俊彦、陳調元、方振武等
各集團軍ニ属スル軍隊二十数万駐在シ是等カ毫モ閻ノ区処
ヲ聞カス勝手ニ軍費ヲ調達シ又勝手ニ駐屯地ヲ移動スル等
衛戍司令ノ職権ヲ蹂躪スルヲ以テ流石ノ閻モ憤慨シ本月上
旬中央政府ニ対シ右ノ如キ実情ヲ密電シ且ツ衛戍司令ノ撤
廃ヲ要請セシカ之ニ対シ蔣介石ヨリ京津地方ノ各軍將領ニ
向ケ閻ノ職権ヲ侵害セサル様戒飭スル処アリ(支那秘密電

トノ噂アルニ際シ銳意搜查檢舉進行中ナリ数日前当地支
那街ニ於テ十数名ノ共產黨員ヲ檢舉目下嚴重取調中ナル
カ何レモ青年職工並学生風態ノモノニテ共產党ノ宣伝文
ヲ所持シ居リタリ其中兩名ハ国民党員ノ徽章ヲ佩ヒ市
党部員ノ登記ヲ了シ居リタルモノモアリ国民党部員中此
種左傾ノモノ尚多数アル見込ニシテ当地省党部並市党部
員ノ取締及廓清ハ刻下ノ急務ナルカ南桂馨カ市党務指導
委員トナリタル結果市党部ハ相当廓清セラレタルモノノ
如ク省党部ハ予テヨリ市党部ニ比シ穩健ナリシモノナル
カ省政府北京移転ト共ニ当然北京ニ移転スヘキモノナリ
何レニセヨ共產党カ活動スル第一線ハ職工煽動ニアルコ
ト疑無ケレハ工会ノ行動ニハ充分注意シ罷工等ノ発生ナ
キ様取締リツツアリ

右報告ス

本信写送付先 在支公使、奉天、青島、濟南、上海、南京

304 昭和3年11月27日

在中国公使館付建川(美次)陸軍
武官より
阿部(信行)陸軍次官宛(電報)

報ニ依リ此ノ内情ヲ知レリ)閻モ漸ク納リタル模様ナルモ
蔣介石ノ威令ハ到底京津地方ニ及フ能ハサレハ實際ニ於テ
ハ閻ノ威令ハ依然トシテ価値ナク唯僅カニ北京及天津ノ警
戒テフ有名無実ノ責任ヲ負ヒ太原ノ田舎者カ都会生活ノ快
感ニ耽リアルニ過キス北京政治分会ハ張繼及李石曾ノ來京
ニ依リ閻ハ一委員タルニ止マリ河北省政府ニハ閻ノ勢力ハ
殆ト認メ難ク去リトテ南京ニ行キ内務部長ニ就任スルノ勇
氣モナク彼ノ前途ハ唯山西ニ帰ルノ一途ヲ有スルノミ白崇
禧ノ如キハ精神的ニハ閻ト何等他意ナキモ其ノ性格及手腕
ニ於テ大ナル差異ヲ有スルノミナラス閻ト同格ニテ中央ヨ
リ財政ヲ受ケ河北ニ駐劄ヲ命セラレアル關係上毫モ閻ノ区
処ヲ聽カス閻亦其性格上敢テ白ニ対シ何等強硬ナル態度ニ
出テス優柔不断ノ譏リヲ甘受シアリ若シ閻ニシテ財政権ヲ
掌握シタランニハ現在ノ如キ苦境ニ陥ルコトナカリシナラ
ントハ閻ニ同情スル支那要人ノ説ヲ一ニスル所ナリ
最近漸ク暴威ヲ逞クシ始メタル市党部ニ対シテモ衛戍司令
タル閻ハ何等ノ制裁ヲ加フルノ拳ニ出テス市党部ニハ困ル
トテ持テ余シアル実情ニ在リ要スルニ閻錫山ノ京津ニ於ケ
ル実勢力ノ貧弱サハ外人等シク之ヲ認ムル所ニシテ将来市

党部ノ勢力拡張ト各師、軍改編ニ伴フ不平分子ノ妄動ニ乗
スル共産党ノ活動ヲ連想セハ平和ヲ装エル京津地方モ決シ
テ樂觀ヲ許ササルカ如シ

五 第二次山東出兵（済南事件と解決交渉）

305 昭和3年4月(21)日 在済南西田総領事代理より
田中外務大臣宛（電報）

済南在留邦人の動揺および一時避難の状況に
ついて

済南 発
本省 4月21日後着

第九五号

時局ニ関シ四月十七日頃ヨリ在留邦人一時動揺ヲ来シ在郷
軍人会及各町代表者數ヶ所ニ集合シ出兵請願方万一ノ場合
ノ引揚準備等ニ関シ協議ヲ遂ケ一方十八十九兩日ニ亘リ婦
女子六十余名ハ青島ニ避難シタルカ十九日夜ニ至リ天津ヨ
リ派兵ノ報伝ハリ二十日午後本官ハ在留民ノ各団体ヲ集メ
時局ノ経過及政府ノ保護方針ヲ略述シ益々邦人行動ノ慎重
ナルヘキ事ヲ注意シ次テ同夕三個中隊到着セルヲ以テ昨朝
来一名ノ避難スルモノ無ク邦人側ハ余程静穩ニ帰シタリ
在支公使、青島、天津へ転電セリ

306 昭和3年4月(23)日 在上海矢田総領事より
田中外務大臣宛（電報）

蔡公時を外交署主任に任命の通知について

上海 発
本省 4月23日後着

第二四七号

国民政府戦地政務委員会主席蔣作賓及同委員会外交署主任
蔡公時兩名ヨリ本官ニ宛テタル内容左ノ如キ公文（四月十
一日付）ヲ本二十三日交渉員ヲ經テ送付シ来レルカ同様列
國領事ニモ通告シタル由ナリ
国民政府ハ今回戦地政務委員会内ニ外交署ヲ設ケテ委員蔡
公時ヲ外交署主任トシテ戦地ニ特派シ随時蔣總司令ノ指揮
ニ依リ外交部ヲ代表シ戦地地方外交事項ヲ管理セシムルコ
トトシ蔡ヲ四月三日徐州ニ向ハシメタルカ戦地地方各友邦
人民ト地方軍警人民ト言語不通等ノ關係ヨリ誤解ヲ生スル